

第 22 回横浜環境活動賞審査委員会（第 2 回）会議録

日 時	平成 27 年 3 月 26 日（木）13 時 00 分～17 時 00 分
開催場所	横浜市開港記念会館 9 号室
出席者	川崎 あや 委員、北村 亘 委員、篠木 幹子 委員、為崎 緑 委員、戸川 孝則 委員
欠席者	山崎 滋 委員、若林 史郎 委員
開催形態	公開（傍聴者 2 名）
議 事	<p>1 受賞候補者によるプレゼンテーション及び質疑応答</p> <p>(1) 市民の部</p> <p>(2) 企業の部</p> <p>(3) 児童・生徒・学生の部</p> <p>(4) 生物多様性特別賞審査</p> <p>2 受賞候補者の決定</p> <p>(1) 市民の部</p> <p>(2) 企業の部</p> <p>(3) 児童・生徒・学生の部</p> <p>(4) 生物多様性特別賞</p> <p>3 事務連絡、その他</p>
決定事項	<p>第 22 回横浜環境活動賞受賞候補者</p> <p><b>【市民の部】</b></p> <p>&lt;大賞&gt; 慶應義塾大学・日吉丸の会</p> <p>&lt;実践賞&gt; 一本橋メダカ広場水辺愛護会</p> <p>上笹下地区竹の子育成の会</p> <p>グリーンサポーターズ・いそご</p> <p>中川ルネッサンスプロジェクト会</p> <p>大豆戸菊名打ち水大作戦実行委員会</p> <p><b>【児童・生徒・学生の部】</b></p> <p>&lt;大賞&gt; 横浜国立大学環境ボランティア Step Up ↑</p> <p>&lt;実践賞&gt; フェリス女学院大学エコキャンパス研究会</p> <p><b>【生物多様性特別賞】</b></p> <p>慶應義塾大学・日吉丸の会</p> <p><b>【企業の部】</b></p> <p>&lt;大賞&gt; リスト株式会社</p> <p>&lt;実践賞&gt; 生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコー ブ新横浜本部</p>
議 事	<p>事務局 定刻になりましたので、始めさせていただきます。本日はお忙しい中、お集まりいただき、どうもありがとうございます。ただ今から、第 22 回「横浜環境活動賞」審査委員会を開催させていただきます。</p> <p>横浜市では、多くの市民、事業者のみなさまが、温暖化防止や生物多様性の保全など、さまざまな環境活動に取り組んでいらっしゃいます。</p> <p>「横浜環境活動賞」では、環境に関する意識を高め、環境に配慮した活動を推進することを目的として、環境保全・再生・創造に関し顕著な功績のあった「市民」「企業」「児童・生徒・学生」のみなさまを表彰しています。今回で 22 回目を迎え、これまで 251 の団体、企業等のみなさまに賞をお贈りしてまいりました。</p> <p>横浜市では、地球温暖化対策並びに生物多様性の主流化を環境行政の基軸として、環境保全に関</p>

する様々な計画を定め、取組を進めております。「生物多様性横浜行動計画 ヨコハマbプラン」を今年改訂しました。また、地球温暖化に関しても様々な計画の策定に取り組んでおります。

この横浜環境活動賞においても、平成 23 年度から生物多様性特別賞を設定し、生物多様性保全の普及啓発に重点的に取り組んでおります。

横浜市は環境に関する多くの計画を策定しておりますが、どの計画におきましても、市民・企業の皆様とともに取り組むことが必ず記載されております。多くの市民・事業者の皆様の活動により横浜の環境が守られているといっても過言ではありません。

今回より、応募者の皆様によるプレゼンテーションの後、委員の皆様にご審議いただく方式に変更しました。環境活動賞の 20 年以上にわたる長い歴史のなかで初めての試みとなります。書類だけでは伝わりにくい「情報」や「思い」を共有できるような場にしたと考えております。長時間にわたる審査となりますが、よろしくお願ひいたします。

続きまして、横浜環境活動賞審査委員長、川崎様より一言ご挨拶をいただきたいと思ひます。川崎委員長、よろしくお願ひいたします。

川崎委員長

初めてプレゼンテーションを行っていただくことになりました。書面だけではなかなか伝わらない部分が多く、本来でしたら委員がすべての団体が汗をかいて活動されている所を見て回ることができればいいのですが、なかなかそうもいかないため、ご足労いただき、日頃の活動を、このプレゼンテーションを通じ、生の声や状況お伝えいただければと思ひます。また、せっかくの機会ですので、他の団体の同じような活動分野や活動内容、活動理念を知り、なかなか知り合う機会のない団体、存在は知っていても実際は交流の無い団体もいらしていますので、ご自身のプレゼンテーションも大切ですが、他団体のプレゼンテーションの様子も審査員と同様にしっかり見て、活動のヒントや今後の協働のきっかけとしていただければ、それこそが活動賞の意義ではないかと思ひます。

事務局

(資料の確認、審査の手順の説明)

これより議事に入りますが、要綱の規定により、審査委員会の議長は委員長になっておりますので、以降の議事進行を、川崎委員長よろしくお願ひいたします。

川崎委員長

本日の委員会は審査委員 7 名のうち 5 名の出席がございます。「横浜環境活動賞審査委員会運営要綱」第 4 条第 3 項により、委員の過半数の出席が得られていますので、成立していることを報告させていただきます。

また、本委員会は要綱第 5 条により公開となっております。それでは、議事に入らせていただきます。

事務局

これより各応募者の皆様から、それぞれの団体の活動のプレゼンテーションを行っていただきます。プレゼンテーション終了後、審査委員の皆様から質疑応答を行っていただきます。プレゼンテーションは、市民の部、企業の部、児童・生徒・学生の部の順に行います。

審査委員の皆様は、各団体の質疑応答が終わるごとに、事前採点表の点数を修正してください。25 点満点中平均点 15 点以上を実践賞の候補者とし、最高得点を大賞の候補者とします。

なお、本日は山崎委員と若林委員が欠席となっております。過去の事例では、審査委員が欠席の場合は、事前採点の点数を最終の点数として計算しておりますので、今回も同様に対応させていただきます。

特別賞については、事前採点にて各委員 1 団体を推薦いただいています。推薦のあった団体について討議し、討議内容を踏まえ、再度ふさわしいと考えられる団体を 1 団体、選んでいただきます。すべての団体の審議が終了したあと、部門ごとの点数一覧および、特別賞の審査結果を確認し、受賞候補者を決定していただきます。

次に、プレゼンテーション及び質疑応答の流れについて説明させていただきます。

【プレゼンテーション】

①事務局より団体の名前を呼ばれましたら、発表場所に移動してください。発表の場所は資料6の「会場図」に、また、プレゼンテーションの順番は資料7「プレゼンテーション発表順一覧」にある通りです。合わせてご確認ください。

②事務局より開始の合図後、プレゼンテーションをはじめてください。時間は3分間です。2分経過時に予鈴、3分で本鈴を鳴らします。

【質疑応答】

③発表後、審査委員の皆様は、内容に関する質問をお願いします。事前審査時に不明だった点について質問されたり、また、他の審査委員の考えをうかがっても結構です。質疑応答の時間は5分間です。4分経過で予鈴、5分で本鈴を鳴らします。

④質疑応答終了後、発表者の方はすみやかに自席にお戻りください。

また、プレゼンテーションについて、以下の点にお気を付け下さい。

①プレゼンテーションはパワーポイント等パソコンソフトの使用はできません。ご注意ください。活動内容を紹介する写真や、工作物等は手に持って審査委員に提示することはできます。

②プレゼンテーション、質疑応答共に少ない時間ですので、要点を絞って簡潔にご説明下さい。時間厳守をお願いいたします。

③円滑な進行のため、次の発表者の方は、準備をしておいてください。

④また、プレゼンテーションが不得意だからと言って、得点が減点になることはありませんので、リラックスして発表を行ってください。

以上です。では、「市民の部」から始めます。

はじめは、「旭図書館グリーンボランティア」です。 それでは発表をお願いします。プレゼンの進め方や資料で分からないところはごさいませんでしょうか。それでは、質問等も無いようですので、さっそく市民の部から始めさせていただきます。

【市民の部】

<旭図書館グリーンボランティア プレゼンテーション>

- ・ 3年間の活動内容（主に草花の管理）
- ・ 平日に担当ボランティアを振り分けて作業
- ・ 手間のかかる作業は図書館の休館日に全員で実施
- ・ 次に植える花や苗、飼料・道具については図書館と相談し調整
- ・ 活動記録の作成・印刷もボランティアで行っている

<旭図書館グリーンボランティア 質疑応答>

為崎委員	活動開始から3年であり、ボランティアの人数も9人、収支計算書もまだ無い状況とのことですが、今後の継続性が確保されているという説得材料は何かありますか。
発表者	打合せをしながら続けている。体が元気なうちは頑張りたいと思っています。
川崎委員長	事務局に伺いますが、旭図書館の他に、公共の場で行っているボランティアは何かありますか。
事務局	市庁舎、区庁舎の生け花や、地区センターのグリーンカーテン、戸塚区役所の屋上庭園では田んぼがあり小学生がお米を作る体験学習などがあります。図書館で年間を通じて日常的に植物を育てている所は他にはおそらくありません。  横浜市はみどりアップ計画でも公共施設の緑化を推進しており、ボランティアの方々の活動は非常に大事であると考えています。
為崎委員	図書館の主導で始まり、今はボランティア中心ということですが、ボランティア主体での活動期間

が短く、判断基準に迷いました。

北村委員

まだ3年と活動期間が短く、始まったばかりなので、今後もじっくり続けてほしいと思います。活動のきっかけは図書館と見受けられましたが、今後は図書館の手を離れてどんどん自分たちの活動の輪を広げていてもらいたいと思います。

発表者

継続は力なりということもあり、春夏秋冬花を愛で、人間を成長させ、ますます発展させたいとも思います。

#### <一本橋メダカ広場水辺愛護会 プレゼンテーション>

- ・横浜線の十日市場から徒歩15分ほどの場所にある川で活動。
- ・エリア内に小学校があり、幼児から児童までが安心して遊べる、親水広場もある。
- ・子どもボランティアもこの川で魅力あふれる環境活動ができています。
- ・近隣の同じ理念を持った団体と緻密な連携をとり活動していきたいと考えている。

#### <一本橋メダカ広場水辺愛護会 質疑応答>

篠木委員

書類ではメンバーは十分足りているとありますが、大丈夫でしょうか。

発表者

参加メンバーは他団体の構成員とも重複しているため、他団体とネットワークが繋がっており、学校関係者、PTA、地域住民ともよく話し合っています。現在の活動範囲においては15名で足りています。

為崎委員

メンバーが重複していること以外で、団体同士が協働して行っている事業などはありますか。

発表者

梅田川水辺愛護会は国交省の主導で、川を主体にイベントを実施しています。活動地域には地元の小中学校も存在しているので、そのネットワークを使って年に一度水辺を使ったイベント（こども川の日）を共同で行っています。

戸川副委員長

夏祭りに模擬店を出店し、活動費が捻出できる仕組みは素晴らしいと思います。どのような仕組みで行っているのでしょうか。

発表者

メンバーが関わっているネットワークの中には、自治会役員も含まれるため、自治会役員は忙しくなかなか模擬店の出展ができないので自治会役員から離れた若手メンバーが模擬店を出す側になり、相互で手伝う仕組みになっています。

川崎委員長

15人いれば活動メンバーは十分とのことですが、現在の活動以外に地域の方々へ自然の良さを共感してもらい、関心を持ってもらうような活動は行っていますか。

発表者

ほたる守り隊などは小学校へ向いて川の保全等について話し、啓発活動を行っています。

為崎委員

今後、多くの方を巻き込んでいくために、もっと活動の幅を持たせることを考えていますか。

発表者

啓発活動を進めていくことを考えています。生き物調査などは中学生も参加しているので、今後の啓発によって、もっと若い人たちを積極的に巻き込んでいくつもりです。

#### <上笹下地区竹の子育成の会 プレゼンテーション>

- ・磯子区の円海山のふもとの市民の森にて活動している
- ・会のスタートから5年、実際はその3年前から子どもやお年寄りとか何か竹の子に関わる取組が出来ないかと考えていた。
- ・大きな狙いは竹の子を八百屋で購入するのではなく、自然から自分で採って味わい、知る体験。
- ・平成23年から氷取沢小学校跡地で実施。
- ・小学生がたくさん参加した。（2年前は116名程が参加）
- ・氷取沢小学校跡地で行うことで、小学生がたくさん参加し、昔のような光景が復元できた。
- ・竹の子はたくさん採れる年とそうでない年があり、自然のものであると実感できた。

＜上笹下地区竹の子育成の会 質疑応答＞

北村委員  
発表者 小学校の給食メニューとして提供しているようですが、小学生は活動に参加しているのですか。  
第1回開催時に参加してもらい、参加した1年生～6年生は、そこで採れたものと理解していた様子です。

北村委員  
発表者 京都の嵐山から竹の子農家の方に来てもらい、指導をいただくこともありました。  
活動は春の竹の子収穫体験一筋でしょうか。他に活動の幅は拡げないのですか。  
上笹下地区の自然を、四季を通じて知ってもらいたかったが、春のイベントが無かったため、竹の子イベントを展開することで、四季全体を大きな輪にしたいと考えました。

為崎委員  
発表者 「竹細工づくり」などは、活動の定着、浸透といった課題を解決した後に取組むとされていますが、現在、それらの課題を抱えているということですか。  
まだ会が発足して3年であり、定着・浸透には10年かかると思っています。また、参加者もボランティアであり、仕事や家庭を持っているため、そちらを優先することがあります。

為崎委員  
発表者 そうした中で、今回応募された理由を教えてください。  
環境活動賞は22回目を迎える中、磯子区内の活動団体がこれまでどこも受賞していないので、区長からも、せっかく素晴らしい活動をしているのだから、地域の宝とし発展させてはどうでしょうか。と、アドバイスをいただいたため、応募しました。

北村委員  
発表者 竹林の管理はどのように行っていますか。間引きや処分はどのようにしていますか。  
3年前に京都嵐山の竹の子農家の方の指導により、なるべく自然に返す方法で管理をしています。間引き竹は腐らせて粉碎する、傾斜の土崩れ防止のために三段に組むなど焼却しないで管理しています。

＜グリーンサポーターズ・いそご プレゼンテーション＞

- ・平成13年度の磯子の緑被率は26.4%で、平成21年度は27.6%ですが、調べたら単純に木が成長しただけであり驚いた。
- ・磯子の今ある緑をどう守るか、また、どう次世代につなげていくかを知識面と技術面からサポートできる人材が必要と考えた。
- ・サポーター認定制を確立し、活動への意欲と、活動に必要な一定の知識と技術を認め、緑の保全を推奨し、応援するためのみどりのサポーターを認定している。
- ・区内を4つの拠点に分け、活動に必要な道具を配備し規模に応じて全体と拠点と活動を分けている。
- ・毎月土木事務所で講座の講演、拠点での公園の手入れ、技術向上の必要に応じて研修・視察も行っている。
- ・緑の協会主催の横浜花と緑の推進リーダー養成講座を受講し、ノウハウを共有する推進リーダーが11名所属している。
- ・個々が個人で地域と密着し、関連団体に参加し、地域密着し関連団体と積極的に活動を推進していきたい。

＜グリーンサポーターズ・いそご 質疑応答＞

篠木委員  
発表者 サポーターの認定基準と、毎年何名くらい受けているのかを教えてください  
知識、技術、やりがいを認めるため、講座と認定制度を設けました。認定されるには座学の知識勉強と技能勉強という一年間の実習を行い、一年後に認定される仕組みとなっています。現在42名（内6名は内定）が認定されています。

為崎委員  
発表者 緑の管理技術普及のための情報発信はどのように行っていますか。

発表者	公園愛護会やハマロードサポーター、グリーンサポーター間や水辺の団体と年に一度交流会を開催し、活動内容を発表し、参加会員が各拠点に戻り活動及び普及、指導を行っています。
為崎委員	今後、グリーンサポーターとして、貴団体の方々の技術力が、他より一歩先を行くためにどのようなことを心がけておられますか。
発表者	実践が無ければ技術も向上しないので、体験することで日々技術向上を目指しています。 また、生物多様性に関する取組として、4つの拠点にある公園に鳥の巣箱の設置などを行っています。
	<p><b>&lt;慶応義塾大学・日吉丸の会 プレゼンテーション&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・慶応義塾大学日吉キャンパスは、20ヘクタールの緑地があり、港北区・矢上川流域最大。ここを拠点に、地域住民のふれあいの場となる、都市と自然が共存する街づくりを目指している。</li> <li>・今年で活動開始23年目。2001年に一の谷自然再生に着手し、明るく見晴しの良い谷になった。</li> <li>・地域の多様なステークホルダーと組んで活動している。現在東急電鉄のみど*リンクアクションの支援をいただいている。</li> <li>・2014年は松の川緑道の会、東急電鉄の方々と一緒に観察会を開催し、小学生を招き絶滅危惧種のホトケドジョウの観察を行った。</li> <li>・矢上川流域でのホトケドジョウ保全活動はTRネットと連携している。一連の活動には、大学からも全面的に支援をいただいている。</li> <li>・2015年度は松の川緑道の会と協力し活動を行う予定。</li> </ul> <p><b>&lt;慶応義塾大学・日吉丸の会 質疑応答&gt;</b></p>
篠木委員	森の整備には多くの費用や手間が発生したと思いますが、コストや人手、行った工夫などはありませんか。
発表者	作業は月に一度が定例であり、臨時で2～3回実施、作業道具は借りるものもあれば、寄付金で購入するものもあります。大きな木の伐採などは参加している市民の中に専門家がいますので、指導を受けながら行っています。
北村委員	大学構内での活動はありましたか、団体名からは大学のひとつの団体と読めますが、実際はどうですか。
発表者	慶応義塾大学が主催ということではありません。
北村委員	学生はどう関わっていますか。
発表者	発足当時は学生と共同して自然観察や荒れた森の整備を行っていましたが、次第に近隣住民の参加が増え、メンバーに広がりが出てきました。
為崎委員	現在は、会の運営に学生参加していないのでしょうか。
発表者	現在の運営には学生は加わっていません。
為崎委員	若い視点が活かされることがないのでしょうか。今回も学生さんが発表にいらっしゃるのかと楽しみにしていたのですが。
発表者	若い学生に入ってもらいたいと思っていますが、なかなか難しいです。
為崎委員	多様なメンバーで構成しているからこそ、出来ることなどはありますか。
発表者	慶応義塾大学自体が外に開かれた大学であり、大学の社会地域連携室という組織もあるので、大学の考え方に沿った形で多くの分野から人々に参加してもらおうことで、参加学生にとっても社会勉強になるメリットが出てきます。
戸川副委員長	企業へ向けた研修とはどのようなものがありますか。
発表者	近隣企業がビオトープを作りたいと相談してきたときのモデルとして、保全のためにホトケドジョウ

ウを分けたり、参考に我々のビオトープを見に来てもらったことがありました。森の手入れ方法について研修を行ったりすることも出来ると考えています。

#### 〈中川ルネッサンスプロジェクト会 プレゼンテーション〉

- ・都筑区の港北ニュータウンにある。
- ・活動のきっかけは商店街に人が集まらなくなってきたため。
- ・緑が多いので、街の魅力を考え、住民からも意見をもらい、緑の環境を活かしたまちづくりをりたいという意見が出たため、活動を開始。
- ・まちづくりNPO法人ぐるっと緑道が中心になり、商業団体、ハマロードサポーター、大学等が集まり、緑豊かな魅力的な街に復活させようと思い「ルネッサンスプロジェクト会」と命名した。
- ・ヨコハマまち普請事業を利用し、住民が設計した魅力的な自然を持った回遊性のある街を作り上げた。
- ・環境省の「みどり香るまちづくり企画コンテスト」で環境大臣賞を受賞した。
- ・花と緑のまち中川をPRする冊子の作成を行った。

#### 〈中川ルネッサンスプロジェクト会 質疑応答〉

- 戸川副委員長 平成 25 年度はまち普請、平成 26 年度は商店街の寄付も入れて収益 30~40 万という資金ですが、今後も資金の大きさは継続されていきますか。
- 発表者 街は皆で作っていくものですので、今後も資金作りは継続して確保していく予定です。皆と一緒に街をつくっているのです、お金を出す人、活動していく人でオーガナイズしていくものだと考えています。
- 為崎委員 プランターを設置しているようですが、維持管理はどうなっていますか。沿道のプランターはごみ箱になりやすいので中長期でごみ箱化しないような体制作りはどうなっていますか。
- 発表者 常に美しくしておくことが大切なので、月に 2 回ほど花壇の清掃、花壇を担当する店の名前と注意書きを記した立札を立てての管理により、今のところ綺麗な状態で維持されています。
- 北村委員 環境活動と街づくりの組み合わせは非常に面白いので、今後の発展が気になります。
- 為崎委員 多様な連携体制が整えられており、ここに学ぶべき点は多くあるのではないかと思います、今回の環境活動賞との関わりがどのくらい強いのが気になりました。
- 戸川副委員長 この活動で重要なステークホルダーがしっかり回っていて非常に良い形が感じられました。
- 篠木委員 街をつくるために環境も含めた活動はとても良いので、今後も続けていただけたらより良いものになるかと思えます。
- 川崎委員長 他の団体が行っている活動が、街づくりと関係ないということではありません。街づくりという視点を入れることはとても良いです。また、環境の視点の他にも福祉など多くの視点で街づくりが進められたらより素晴らしい街になると思えます。

#### 〈大豆戸菊名打ち水大作戦実行委員会 プレゼンテーション〉

- ・元は地球温暖化対策の一環として打ち水を始めた
- ・大豆戸という特殊な名称から、大豆戸小で「豆」を植えて収穫しようと始まった
- ・各家庭で行う打ち水だけでなく、町内会が関わり、子どもたち中心に 200 人近くが参加し、昔、大豆戸に流れていた川を再現した打ち水を行っている
- ・地球温暖化からエコにも目が向き、区役所屋上や資源循環局施設の屋上に設置されている太陽光発電の見学会なども実施した
- ・2 月には「ひととゆめのネットワーク」の協力により、ソーラーカーを作って電気ができる仕組

みを体験するなどのワークショップの開催をした

**〈大豆戸菊名打ち水大作戦実行委員会 質疑応答〉**

- 為崎委員  
発表者 「まめどまめ」作戦はユニークだと思いました。今後の発展をどのように考えていますか。  
小学校3年生の授業での緑のカーテンを実施しています。学年とともに毎年対象の子どもは変わるので続けていきたいです。子どもたちは同じ豆が味噌になったり枝豆だったりと気づきを得ています。
- 篠木委員  
発表者 活動報告書2,000部の配布先を教えてください。  
大豆戸小全校と町内会の回覧板、協賛団体や企業に配布しています。
- 篠木委員  
発表者 活動報告書の設置場所の開拓は行っていますか。  
協賛外の企業や保育園の参加者も増えているため、今後は教育関係を中心に広げていきたいです。
- 北村委員  
発表者 活動報告書に随分いい紙を使っていますが、補助金などの活動資金確保はどのようになっていますか。  
近頃は印刷も非常に安価で出来るものがあり、リソグラフより安く済むことがあります。打ち水にかかる助成金は5年目となり切れてしまいますが、企業協賛は一口1,000円で継続していく予定です。逆に協賛にのみ参加してくれる企業もあります。

**【企業の部】**

**〈生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ 新横浜本部 プレゼンテーション〉**

- ・組合員向けに様々な環境啓発を行っているうちの一つに節電ポイントキャンペーンがある。
- ・東日本大震災以降、もう一度節電を考えてもらうために始めた。
- ・どうしたら、取り組んでもらえるかを考え、楽しみながら節電をすることを考えた。
- ・メガワットという概念にたどり着いたが、HEMS、BEMSは初期費用が高いため、東京電力の明細を当ホームページのフォームに入力し、震災前の世帯別電気使用量を基準として簡単に数字を入力してもらうシステムとした。
- ・家族構成が同じような世帯の平均値から、自分の家が節電できたかどうか比較しポイントを付与。

**〈生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ 新横浜本部 質疑応答〉**

- 為崎委員  
発表者 ポイント付与を動機づけとすることで、得だから参加する、申請すればポイントがもらえるということになってしまい、環境意識が希薄になる懸念はないですか。参加者の環境意識が変わったというようなエピソードがあれば、お教え下さい。  
アンケートで「自分の家庭が他の家より使用量が多いと知りました」という声もあり、参加者全体の4分の1の世帯が、基準よりもオーバーしていても申請してくれました。参加世帯にとって気づきの機会になったのではないかと思います。
- 為崎委員  
発表者 キャンペーン終了後も節電意識が持続するかどうかの見通しはどうなっていますか。  
3か月間という期間で、毎年同じ基準で実施しているので、毎年参加する方の意識は、昨年と比較してどうだったかなど、変化があると思っています。
- 川崎委員長  
発表者 節電は各家庭や学校などでも震災後積極的に行っていましたが、なぜ今、節電というテーマでしょうか。震災を契機にということなら、自然エネルギーの開発などもテーマとしてあったのではないですか。  
再エネの運用など、他の取組も行っていますが、今回のテーマである節電は、地味でありながら、なかなか個々では取組みにくいものなので、積極的に取組みをもちかけました。
- 為崎委員  
発表者 2014年度の参加者数は1,268人となっていますが、母体となる全体の組合員数はどのくらいいますか。

発表者 約28万人に組合員として利用していただいています。全体数からすると参加はまだまだ少ないと思っています。手続が課題だと思います。

北村委員 きっかけづくりには貴社ならではの地元密着が大きく貢献したと思いますが、次の段階として「気づき」のその先はどのような展開を考えていますか。

発表者 来期はもっと発展させたいです。東電の家計簿などにエントリーしてもらうなど幅を広げたいと思います。

戸川副委員長 リユース回収率の40%は想定よりも低いのでしょうか。また、2か月限りでのポイント付与にはどのような結果がありましたか。

発表者 数字では特定の仕様のビンが40%の回収率となっていますが、実際は様々な種類のビンを含めると回収率は60%を超えています。今まではリユースビンではと思っていた特定のビンがリユース可能と知り、リユースに対する意識も変化があったと思いますし、他のグループ生協と比較しても回収率は高くなっています。

戸川副委員長 リユースに参加した組合員へ何かフィードバックはしていますか。

発表者 キャンペーン終了した時点と年度終了後に成果の報告を行っています。

**<リスト株式会社 プレゼンテーション>**

- ・環境活動のきっかけとなった原点は初めての支店開設時（2000年）に東戸塚駅前の清掃活動を従業員が自発的に開始したこと
- ・従業員の意識アップ、近隣住民の美化意識向上、私どもの取組姿勢への理解アップが継続へつながった
- ・現在はリスト全支店で実施している。
- ・横浜で生まれ育った企業として地域との連携を大切にしている。
- ・大手企業は安心があるが、フットワークや地域への責任の果たし方が十分でなく、逆に少人数の企業ではスケールメリット提供が難しい。その双方が出来にくいことを提供したいと考えた。
- ・地元根付くことを生業と思い、バイスターズのヘルメット等スポンサーを10年続けており、マリノスや地域少年野球、少年サッカーも応援協賛を続けている。
- ・2010年からはスポーツごみ拾いを開催、運営している。

**<リスト株式会社 質疑応答>**

川崎委員長 横浜は都心部でも奇跡のように残った里山を市民の皆さまが守っている。不動産という開発して自然を無くしていくイメージが強いが、不動産業界でも考えが変わってきているとは思いますが、市民が取組み守っている自然のある地域について不動産業としてどう考えていますか。

発表者 様々な不動産業がありますが、作って売って終わりではなく、住まれる方の生活サイクルとして回って初めて社会的な価値が出ると思っています。企業である以上、収益を出すことも求められます。単純に自然保護だけを考えると赤字になるようでは責任ある企業として継続できませんので、街づくりとのバランスが大事になります。この点では大手と比較されても劣っているとは思っていません。

北村委員 スポーツごみ拾いの発祥とまた今後の展開を教えてください。

発表者 元々は渋谷区で大学生が中心となって開催したのがはじまりで、ごみを拾うことに得点で順位を付けるなど、参加者のモチベーションを上げるためにスポーツと結びつけたイベントです。

2009年秋にその主宰者が居住している横浜でも開催できないかという話をいただき、名乗りをあげました。社員だけでなく近隣の方々と繋がりを持ち実施することは意味があります。横浜は5年間で73回実施し、日本一スポーツごみ拾いが開催されたエリアです。

<p>為崎委員 発表者</p>	<p>エコ対応の住宅の居住者の方達は、入居後の日常生活においても、環境意識は高いのでしょうか。お子さまが自宅で分別をするようになった、ごみをポイ捨てしなくなった、という声がありました。マンションなど戸建以外ではHEMS以外の取組が出来ていないのが実情であり課題です。不動産を販売したお客様とは年4回以上、その後も会員誌等を通じて交流を行っています。</p>
<p style="text-align: center;"><b>【児童・生徒・学生の部】</b> <b>〈フェリス女学院大学 エコキャンパス研究会 プレゼンテーション〉</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽光発電や風力発電などの設備が整ったエコ大学。</li> <li>・エコを堅いイメージから楽しくより多くの人々に行ってもらおうと活動を始めた。</li> <li>・相鉄ホールディングスとヴィ・ド・フランスと共同で3種類のパンを開発。地元野菜で地産地消のPRを行った。</li> <li>・魔法瓶のタイガーに協力をしてもらい、フェリスの校章入りマイボトルを作成。</li> <li>・インドネシアのヤシ砂糖を実際に作っている現地へ行き、大学近くの菓子店で持ち帰ったヤシ砂糖を使用したオリジナル菓子を作成した。</li> <li>・子どもたちに向けた親子講座の開催、地域経済の発展への貢献、旬の時期に合わせて野菜パンでの地産地消を推進していきたい。</li> </ul>	
<p style="text-align: center;"><b>〈フェリス女学院大学 エコキャンパス研究会 質疑応答〉</b></p>	
<p>為崎委員</p>	<p>様々な企業との連携を行っているようですが、学生という立場で企業や商店と繋がりを持つのは難しいと思いますが、パイプなどはどのように作ったのでしょうか。</p>
<p>発表者</p>	<p>参加学生のアイデアでやってみたい事を出し合い、先輩やOBの紹介、活動を知ってくれた企業側からのオファーなどで実現しました。</p>
<p>為崎委員</p>	<p>先輩達からのつながりということですが、卒業後もその先輩方は環境に対する意識を持続しているのでしょうか。</p>
<p>発表者</p>	<p>先輩の中には、現在も環境に関する事業に携わっていたり、それに関する本を出したり、新聞などに記事が載ったりと活躍されている方もいらっしゃいます。</p>
<p>篠木委員</p>	<p>パン作成などの事業は単発で終了なのでしょうか。事業終了後も繋がりがありますか。</p>
<p>発表者</p>	<p>一つの事業で終了してしまう企業や商店もあります。うまく噛み合わない場合や、この活動は環境のためにならないと判断したりなど試行錯誤しつつ、大体は事業後も繋がりを持っています。今後もどんどんチャレンジをし、関わる企業や商店を増やしていくつもりです。</p>
<p>北村委員</p>	<p>商品が魅力的であるなど、発想を社会へ向けた視点が大事です。現在、一年生がいないということですが、今後の見通しはありますか。</p>
<p>発表者</p>	<p>昨年度はクラブ紹介に参加できなかったことが大きな要因です。そのため、新入生の勧誘に積極的になれませんでした。今年は他大学と合同で企画し、ポスターやチラシも気合を入れて作成し、準備をしています。</p>
<p>戸川副委員長</p>	<p>そろそろ、ビジョンを打ち出したほうが良いと思いますが、考えているものはありますか。</p>
<p>発表者</p>	<p>毎年メンバーが変わるので、年度ごとに目標があり、今年のテーマは「次世代につながるエコを発信する」で、毎年テーマを自分たちで設定しています。全体的に女子大生らしいエコ活動を目指しています。</p> <p>楽しくしないと、もともとエコに興味がない人に環境に興味を持ってもらうのは難しいと思っています。環境設備が整っている大学だからといって、皆が環境に目を向けているわけではありません。</p> <p>「節電隊」として使用していない教室のエアコンを消して回っていたときに無駄についている電気が多くてショックを受けました。</p>

また、環境に関心を持ってもらうきっかけとして食べ物などをテーマにすると女子大生は興味を持ちやすいので、そんな視点が生み出せるのは自分たちが女子大生だからではないかと思います。

#### 〈横浜市立港南台第三小学校 審議〉

(都合がつかず、プレゼンテーション不参加。書面のみでの審査)

- 川崎委員長 委員の中での意見交換をし、最終的な審査結果としたいと思います。横浜市立港南台第三小学校は、まだ活動が浅いのでその点も審査の判断が難しいところだと思います。
- 北村委員 綺麗に整備した、で終わってしまわないように今後の活動の維持の秘策などを知りたかったです。
- 為崎委員 進級によって、毎年活動メンバーも変わるので継続性などを見守る必要があります。
- 閉じられた活動ではなく、近くのコミュニティハウスに集まる大人たちの交流もあり、地域の方も交えながら広がっている点には注目しますが、活動開始からの期間が短く、今の段階では判断が難しいので、しばらく見守りたいと思います。
- 篠木委員 活動そのものは評価できるが、今がちょうど盛り上がっている所だと思うので、今後どのようになるか、地域活動の幅が広がってからの成果が出たところで、また見てみたいと思います。
- 戸川副委員長 同じく、まだスタートして新しいプロジェクトなので、今後の楽しみです。

#### 〈横浜市立大学環境ボランティア Step Up↑ プレゼンテーション〉

- ・月に一度のペットボトルキャップの回収活動、大学内での打ち水やキャンドルナイトの実施。
- ・金沢フォーラムでは金沢区、京急ストア、ダイエー、関東学院などと協力し、子どもたちへ牛乳パック・ペットボトルのおもちゃ作りを開催し、楽しくリサイクルを学んでもらった。
- ・3月の横浜マラソンでごみ分別の指導を行った。
- ・組織編成として部員をプロジェクトごとに割り振り、より多くの部員が主体的に学年を超えて密な活動ができるように調整した。
- ・全国大学生環境活動コンテストにて、取組が認められ、ベスト6を受賞した。

#### 〈横浜市立大学環境ボランティア Step Up↑ 質疑応答〉

- 戸川副委員長 昨年も環境活動賞に応募していただき、その際に指摘のあった課題の改善にあたって注意した点がありますか。
- 発表者 昨年度応募の時点では組織が無く、イベントごとに参加者が集まる仕組みで活動自体は楽しいけれど、基礎がありませんでした。今年度新入部員が60名を超えたため、プロジェクトを作ることで一つ一つを発展させていきました。
- 篠木委員 組織を作り部員を4つのプロジェクトに分けたようですが、希望するプロジェクトが重複した場合は複数参加を認めていますか。
- 発表者 プロジェクトは昨年10月に発足したもので、複数参加は最高2つまでは認めています。実際に活動に参加して余裕があるのであれば、4つまで参加を認めています。2つ入っていれば何かしら毎月イベントがあるため現在のところ一人の部員が2つまで入っているのが最大です。
- 北村委員 やりたい事をやってみようというスタイルだから楽しいのではないのでしょうか。新しい取り組みや活動を始めるときはどのように決定するのですか。
- 発表者 新規イベントや活動を行いたい人は、まず企画書を作成し、新規事業を行うためのバックアップ体制を作り上げています。
- 為崎委員 自分たちの活動を向上させるために他から学ぶ場などはありますか。
- 発表者 エココン(全国大学生環境活動コンテスト)に参加することで、部の知識を深めています。また、他大学がどんな活動を行っているかを知り、自分たちの活動に活かしています。

為崎委員	学生間のつながり以外に、大人との交流はありますか。
発表者	活動の幅を、まず学内、次に地区、横浜市と少しずつ広げていくつもりです。大学連携プロジェクトとして大学のボランティア支援室と相談し、今後の方針を話し合っていきたいと考えています。 <b>【生物多様性特別賞】</b>
事務局	(事前審査で推薦があった慶應義塾大学・日吉丸の会及び一本橋メダカ広場水辺愛護会について説明)
川崎委員長	お一人ずつ御意見をお願いいたします。
北村委員	生物多様性に配慮した団体ということですが、生物多様性の解釈が難しく、きちんと解釈が来ていないのではないかという懸念があります。その中で、今回の2団体が絶滅危惧種に対する活動をしているという点が生物多様性として分かりやすかったのではないのでしょうか。 一本橋メダカ広場水辺愛護会はホトケドジョウの生息する生態系を守るだけではなく、セイタカアワダチソウやウシガエルなどの外来生物の駆除なども評価できました。小学生に啓発活動を行った点も良かったです。
川崎委員長	慶應義塾大学・日吉丸の会の活動は希少種や絶滅危惧種に関する取組みだけでなく環境的な価値について御意見はありますか。
北村委員	素晴らしい取り組みだと思います。人が手入れして里山の環境は守られてきました。大学の中で放置されていた場所の手入れをし、環境を取り戻せたことはとても評価できる点です。 プレゼンテーションを行っていただいたことで、知ることができましたが、せっかくなので応募書類の中にも入れてもらいたかったと思います。
川崎委員長	他に生物多様性の部分で判断に迷うようでしたら、この時点で他の団体への御意見なども合わせてありますか。
為崎委員	慶應義塾大学・日吉丸の会の活動では、生物の絶滅を避けるために、その生物の他団体への提供も行っており、自ら保存するにとどまらず、他団体との連携の中で守っていこうとする点に、保全に対する高い意識を感じることができました。
篠木委員	多様性という意味では多様な生物が守られているということで、それを自発的に行っているかそうでないかでいくと、上笹下地区竹の子育成の会の活動も生物多様性につながるのではないかと、プレゼンテーションから感じました。今回は、手を入れ続けて守る努力をされている慶應義塾大学・日吉丸の会を評価させていただきました。
戸川副委員長	もっと詳細を書き込んでいただきたかった。今回応募のあったすべての団体で生物多様性と関係ないところは無いはずなので、次回以降さらに力を入れていただけることに期待します。
北村委員	生物多様性に関係ない団体はなく、このような特別賞の設定により、もう一度自分たちの活動が生物多様性にどう影響するのかを考えるきっかけとしてほしいと思います。また、個人的には生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ新横浜本部のセミの抜け殻集めに注目しました。アメリカなどで発達している市民科学のように、もっと市民を巻き込んでいただきたいと思います。市民と一緒に環境の変化を調べようという取組は非常に面白く、先日のセンター試験の英語問題にも出題されているくらい注目されつつあります。生物多様性の保全活動だけでなく、市民も巻き込んで調査を行い、研究のレベルまで押し上げていこうという市民科学はアメリカ中心に出来上がっています。きっかけとしては、非常に面白く感じました。我々も、生物多様性を教える側として、浸透がまだまだ足りないと感じたので、分からないことなどは質問いただければどんどんお答えしたいと思いました。
川崎委員長	生物多様性特別賞の表彰者の該当なしという判断も含めて、今の議論を踏まえ、審査を行っていただきたいと思います。

**【各部門大賞及び実践賞】**

**＜市民の部＞**

- 事務局 (「実践賞」の対象となる15点以上の団体及び、「大賞」の候補団体について説明。)
- 川崎委員長 点数で一番高いのは慶應義塾大学・日吉丸の会となりますが、全体を通してのコメントなどがありましたら各委員お願いします。
- 北村委員 慶應義塾大学・日吉丸の会は活動が多岐に渡っていて、参加者の幅が広いので今後の発展が期待できると思いました。
- 為崎委員 市民を巻き込んだ多様な構成と活動が面白く感じられました。活動の場が大学キャンパス内でありながら、地域の方々と連携した、開かれた活動だと感じました。
- 北村委員 多様な活動が評価されたと言っても、他の団体が多様な活動をしていないから評価されなかったというわけではないという点を補足させていただきます。竹の子に着目して、1つの事を専門的に行っている活動も非常に面白いと思います。環境活動を行っていく上で、一つの筋を持って活動することは非常に良いことだと思いますので、多様な活動というのは今回、慶應義塾大学・日吉丸の会のひとつのキーワードであって、それがないと評価ができないということではありません。多様な主体の中で活動を続けていたことが高い評価に繋がりました。
- 篠木委員 慶應義塾大学・日吉丸の会を評価させていただいた点としては、継続性が非常にあったこと、かなり長い年月活動に取り組まれてきて、それが論文になったりと、自分たちをより高める方法で外に成果を公表しようとする意志を高い評価とさせていただきます。
- 戸川副委員長 プレゼンテーションを行っていただいたおかげで、かなりの僅差になった印象です。慶應義塾大学・日吉丸の会は大学生の参加に力を入れていただきたいと思いましたが、他団体もあと一歩であり、本当に素晴らしいものばかりでした。
- 川崎委員長 慶應義塾大学・日吉丸の会は地域の方々と連携されている点が素晴らしいですが、大学生が3人しかいないことがもったいなく感じました。今後大学生の参加者が増えて、学生の部でも環境活動賞にエントリーしてもらえると嬉しく思います。
- それでは、今回は審査委員会としましては、最高点の慶應義塾大学・日吉丸の会を市民の部の大賞候補者として選定し、大賞以外で15点以上の団体を実践賞の候補者として決定させていただきます。
- 旭図書館グリーンボランティアの活動は実践賞までに、本当にあと一歩でしたが、まだ活動期間が短いということで、ぜひ、活動を継続していただきたいと思っております。各委員から、何かコメントはありますか。
- 為崎委員 今回受賞を逃してしまったことは、まだ活動年数が浅いということが大きな理由ですので、活動が否定されたわけではありません。内容はとても素晴らしいものですので、ぜひ再チャレンジしていただけることを期待します。

**＜企業の部＞**

- 事務局 (「実践賞」の対象となる15点以上の団体及び、「大賞」の候補団体について説明。)
- 川崎委員長 どちらの会社も15点を上回っているということで実践賞の候補としては問題はないということでしょうか。何か御意見やコメントはありますか。
- 北村委員 2社から選ぶということで非常に難しいところではありますが、少なくとも二つとも素晴らしい活動ですので、実践賞として申し分ないと思います。
- 今年の応募が少なかったからリスト株式会社を選んだということではなく、自社製品の中でも環境に配慮した取り組みを行っている事が資料から伺えましたので、ぜひ、このまま大賞候補となればと思っています。

戸川副委員長	リスト株式会社のごみ拾いイベントの実施回数は単純計算すると2週間に1度は実施していることとなります。なぜ継続しているのかのヒントや、活動の意義などを明確にしたらもっと素晴らしい取り組みとなっていくと思います。
為崎委員	どちらも甲乙つけがたいというのが正直な感想です。生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ新横浜本部のエコポイント制は、身近で地道な活動であり、持続性が感じられたのでこのまま続けていただきたいと感じました。リスト株式会社は自社の販売不動産で先端的な取組をしていることも評価できました。
篠木委員	企業の評価は業種によってかなり活動の内容が異なるので比較が難しいですが、どちらの取組も素晴らしいと感じました。リスト株式会社の住宅を通して街づくり、環境とどのようにつなげるかをさらに発展させて、ますます環境配慮した取り組みを進めていただければと思います。 生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ新横浜本部の活動は安心と安定を感じますが、今後は「ああ、見たことがある」より「あっ、こんなこと始めたんだ」と新規性がある活動があると、もっと良いと思います。
川崎委員長	それでは、企業の部の大賞はリスト株式会社、実践賞は生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ新横浜本部を候補とさせていただきます。 <b>&lt;児童・生徒・学生の部&gt;</b>
事務局	(「実践賞」の対象となる15点以上の団体及び、「大賞」の候補団体について説明。)
川崎委員長	まず、実践賞の候補としてはフェリス女学院大学エコキャンパス研究会も横浜市立大学環境ボランティア Step Up ↑も申し分ありませんが、横浜市立港南台第三小学校が実践賞に点が達していないことが、惜しいです。実践賞にあと0.3ポイント届かなかったのが、今回は対象外とさせていただきます。フェリス女学院大学エコキャンパス研究会と横浜市立大学環境ボランティア Step Up ↑は両方とも素晴らしい取り組みをしていて点数的には非常に近いのですが、大賞2団体はありえないのでしょうか。評価結果のとおりですと大賞は横浜市立大学環境ボランティア Step Up ↑となりますが、御意見、コメントはありますか。
北村委員	大賞を1者に絞るのは、制度上仕方ないことだとは思いますが、横浜市立港南台第三小学校はぜひ今後を見守りたいと思います。活動を続けての変化を次の機会に知りたいと思います。
川崎委員長	フェリス女学院大学エコキャンパス研究会と横浜市立大学環境ボランティア Step Up ↑の2者を大賞にすることは制度上できないのでしょうか。
事務局	審査基準は原則として1者を選定することとなっておりますので、その原則の幅でどのように審査いただけるかも判断していただきたいと思います。
川崎委員長	応募が10団体くらいあったら明確になり良かったのかもしれませんが、実践賞なしで大賞2者というもおかしいとは思いますが、他の委員の皆さん、御意見ありますか。
為崎委員	横浜市立大学環境ボランティア Step Up ↑は昨年度も応募して、指摘された点の改善を図り、1年間で組織を立て直し、体制を作り上げてきたことが、審査員にインパクトを与えたのだと思います。今回、やはり大賞が1者、ということでしたら、フェリス女学院大学エコキャンパス研究会は今回が初めての応募ということですので、次回に大賞を目指して再挑戦いただくということで、本年度は横浜市立大学環境ボランティア Step Up ↑を大賞候補としてはいかがでしょうか。
戸川副委員長	横浜市立大学環境ボランティア Step Up ↑は2回目の応募で良くブラッシュアップしてきたな、と思いました。学生が持続可能な活動を行うことは、難しい課題だと思いますが、組織の編成や仕組み作りにより、持続可能としてきたという点が非常に好評価につながりました。フェリス女学院大学エコキャンパス研究会は活動サイクルが出来上がっているとは思いますが、もっと面白くしていけるのではないかとと思うので、ぜひ、よろしくをお願いします。

篠木委員	<p>どちらも大変素晴らしい活動をされているが、フェリス女学院大学エコキャンパス研究会は1年生を入れ、来年もう一度応募してもらい、ぜひ審査委員会の開場を盛り上げてほしいと思います。横浜市立大学環境ボランティア Step Up↑は、力み過ぎて疲れてしまわないよう、ぜひ今後も頑張ってください。</p>
川崎委員長	<p>それでは、今回は昨年大賞を逃したけれど、ブラッシュアップしてリベンジしてきた横浜市立大学環境ボランティア Step Up↑を大賞候補とし、実践賞は、点数的にはとても惜しかったのですが、今後に期待するというので、フェリス女学院大学エコキャンパス研究会にすることにいたします。フェリス女学院大学エコキャンパス研究会は次回、大賞を狙って応募をしてきてください。横浜市立港南台第三小学校は、活動自体は非常に素晴らしいものでしたが、まだ始まったばかりですのでぜひ活動を定着させて無くならないよう見守っていきたいと思います。</p> <p><b>&lt;生物多様性特別賞&gt;</b></p>
事務局	<p>慶應義塾大学・日吉丸の会が4票、一本橋メダカ広場水辺愛護会が3票で慶應義塾大学・日吉丸の会が最も多い得票数となりました。</p>
川崎委員長	<p>欠席審査員の事前票も入れて、7票で慶應義塾大学・日吉丸の会が4票、一本橋メダカ広場水辺愛護会が3票となりました。他の団体が生物多様性を考慮していないということではありませんが、最終的に1団体に絞るということではよろしいですか。</p>
為崎委員	<p>本当に僅差ということで、議論を続けても結論は難しいと思いますので、最終の得票結果での決定でいいのではないのでしょうか。</p>
北村委員	<p>慶應義塾大学・日吉丸の会は市民の部で大賞を受賞しているので生物多様性特別賞は譲ってもいいのではないのでしょうかとも思いますが、内容を見ましても、慶應義塾大学・日吉丸の会はまさに生物多様性を守る活動そのものだったので、僅差ではありますが、生物多様性特別賞を取るには恥じない活動をしてきていると思います。一本橋メダカ水辺愛護会の皆さまも非常に僅差で残念なところではあるのですが、まさに、生物多様性特別賞に引けをとらない活動を行ってきたので、これからも生物多様性の視点を持って活動を続けていただきたいと思います。</p>
川崎委員長	<p>それでは、よろしいですか。</p>
事務局	<p>先程部門ごとの大賞につきましては、1者でと説明しましたが、生物多様性特別賞は1者でなくても問題はありません。</p>
川崎委員長	<p>生物多様性特別賞は原則として1者でなくても問題ないということですが、今までかなり票で差がついて1者に絞っていましたが、同点でしたら悩むところではあります。</p>
為崎委員	<p>審査員の票が割れてと言うことでしたらまた違いますが、今回は最初から選考は2者に絞られていた中での、最終投票ということで、この形で1者の表彰でよろしいのではないかと思います。</p>
川崎委員長	<p>2団体に投票はありましたが、票が多かった方に特別賞を選定することと審査員の合意が得られましたので、委員会としては慶應義塾大学・日吉丸の会を今年度の生物多様性特別賞として選定するというので決定いたします。</p> <p>それでは、以上をもちまして、審査委員会を終了させていただきます。</p> <p>では、事務局にお返しいたします。</p>
事務局	<p>審査委員の皆様並びに応募者の皆様には長時間にわたるプレゼンテーション及び審議をいただき、ありがとうございました。受賞候補となった団体はもちろんのこと、今回、選考に漏れた団体も、今後もさまざまな活動を継続し発展させていただくことを期待し、私ども行政も様々な形で支援に取り組んでいく所存です。</p> <p>本日の会議録についてですが、第1回同様、公開とさせていただきます。委員並びに発表者の皆様には事前にご確認をいただきます。また、今回受賞される団体様の応募用紙につきましては、募集</p>

	<p>概要に記載しておりました通り、個人情報等を抜いた状態でホームページに掲載する予定ですので、ご了承くださいませよう、よろしくお願いいたします。</p> <p>今後の予定についてご説明しますので、資料8をご覧ください。本日の審査委員会の審査をふまえ、市長が被表彰者を決定します。決定についての正式な連絡は、あらためて文書にて通知いたします。表彰式は6月11日（木）の午後に開催します。あらためてご案内申し上げます。</p> <p>また、表彰式において、受賞団体の活動を紹介する事例集の配付及び、ポスターセッションとしてパネルの掲示を行います。受賞者の方々には、後日、正式にご依頼させていただきますが、原稿の執筆をお願いいたします。</p> <p>パネルは表彰式後、みなとみらいのクロスパティオにて（6月25日～7月1日まで）展示する予定でございます。ぜひご覧ください。</p> <p>また、今回市民の部及び児童・生徒・学生の部の大賞に選ばれた団体、並びに生物多様性特別賞に選ばれた団体の皆様には、6月27日（土）にみなとみらいで開催予定の「環境行動フェスタ」において、ブースを出展するスペースを確保しております。ぜひご出展いただき、市民に対し環境行動を広く普及啓発して頂きたいと考えております。詳細については、別途ご相談させていただきます。</p> <p>では、第22回横浜環境活動賞審査委員会はこれをもって終了いたします。ありがとうございました。</p>
資料1 資料2 資料3 資料4 資料5 資料6 資料7 資料8 資料9	横浜環境活動賞審査委員会 委員名簿 横浜環境活動賞実施要綱 横浜環境活動賞審査委員会運営要綱 審査基準（市民の部／企業の部／児童・生徒・学生の部／特別賞） 第22回横浜環境活動賞 応募者概要 会場図 プレゼンテーション 発表順一覧 今後の流れ （参考資料）これまでの受賞者一覧

# 第22回 横浜環境活動賞審査委員会（第2回）

平成27年3月26日（木）13時～

於 横浜市開港記念会館 9号室

## 次 第

### 1 開 会

### 2 議 事

#### (1) 受賞候補者によるプレゼンテーション及び質疑応答

- ・市民の部
- ・企業の部
- ・児童・生徒・学生の部
- ・生物多様性特別賞審査

#### (2) 受賞候補者の決定

- ・市民の部
- ・企業の部
- ・児童・生徒・学生の部
- ・生物多様性特別賞

#### (3) 事務連絡、その他

### 3 閉 会

#### 【配付資料】

- 資料1 横浜環境活動賞審査委員会 委員名簿
- 資料2 横浜環境活動賞実施要綱
- 資料3 横浜環境活動賞審査委員会運営要綱
- 資料4 審査基準（市民の部／企業の部／児童・生徒・学生の部／特別賞）
- 資料5 第22回横浜環境活動賞 応募者概要
- 資料6 会場図
- 資料7 プレゼンテーション 発表順一覧
- 資料8 今後の流れ
- 資料9 （参考資料）これまでの受賞者一覧

## 横浜環境活動賞審査委員会名簿

(敬称略、五十音順)

氏 名	所 属
かわさき 川崎 あや	特定非営利活動法人アクションポート横浜 理事
きたむら わたる 北村 亘	東京都市大学環境学部 講師
しのき みきこ 篠木 幹子	中央大学総合政策学部 准教授
ためさき みどり 為崎 緑	中小企業診断士
とがわ たかのり 戸川 孝則	横浜市資源リサイクル事業協同組合 企画室長
やまざき しげる 山崎 滋	横浜市町内会連合会 委員
わかばやし しろう 若林 史郎	横浜商工会議所 理事・企画広報部長

任期：平成 25 年 11 月 1 日～平成 27 年 10 月 31 日

※山崎委員は前橋本委員の横浜市町内会連合会委員の退任に伴い推薦されたため、

任期は平成 26 年 8 月 1 日～平成 27 年 10 月 31 日

## 横浜環境活動賞実施要綱

### (目的)

第1条 この要綱は、環境保全・再生・創造に関し顕著な功績のあった個人、団体、企業及び児童・生徒・学生を表彰（以下「横浜環境活動賞」という）することによって、環境に対する意識高揚を図り、環境に配慮した活動を推進し、環境保全型社会の創造を図ることを目的とする。

### (表彰の区分)

第2条 この要綱による表彰は、次のとおり区分することとし、(1)から(3)の各部門においては実践賞及び大賞を設置する。

- (1) 市民の部 個人及び団体に対する表彰
- (2) 企業部 企業に対する表彰
- (3) 児童・生徒・学生の部 児童・生徒（小・中学生）、学生（高校・大学生）を中心とする団体に対する表彰

2 前項に定める実践賞及び大賞の他、市長は、必要に応じて特別賞を設置することができる。

### (表彰対象)

第3条 横浜環境活動賞の表彰対象は、次に掲げるいずれかの要件に該当するものとする。

- (1) 環境保全・再生・創造に関し普及啓発、実践活動等を行い、その成果が認められるもの
- (2) 環境に配慮した活動を行い、環境保全・再生・創造の推進に貢献しているもの
- (3) その他市長が表彰に値すると認めるもの

2 前項の規定にかかわらず、次のいずれかに該当するものは表彰の対象としない。

- (1) 既に横浜環境活動賞大賞を受けたもの
- (2) その他市長が適当でないと認めたもの

### (表彰の方法)

第4条 横浜環境活動賞の表彰は、表彰状を授与して行う。

2 前項の場合において、記念品等を併せて授与することができる。

### (候補者の募集)

第5条 横浜環境活動賞の表彰対象となる候補者は、一般公募及び横浜市の関係局区、学校長、市民団体等の推薦により募集する。推薦を行うものは、次の基準により個人、団体、企業、児童・生徒（小・中学生）、学生（高校・大学生）を中心とする団体を推薦するものとする。

2 候補者の資格は次のとおりとする。

- (1) 個人 横浜市内に居住又は勤務先を有するもの
- (2) 団体 団体の主たる活動を横浜市内で実施しているもの、若しくは団体の本拠地を横浜市内に有するもの
- (3) 企業 横浜市内に事業所を有するもの
- (4) 児童・生徒・学生 横浜市内に通学する児童・生徒（小・中学生）、学生（高校・大学生）を中心とする団体

3 推薦基準は次のとおりとする。

- (1) 第3条第1項に掲げる条件を満たし、対象者の活動が他の模範となり推奨できるものであること。
- (2) 対象者の活動が、将来にわたり継続する見込があり、かつ学校・家庭や地域社会への貢献度が高いものであること。
- (3) 対象者の活動期間が、概ね3年以上であること。

### (応募様式)

第6条 応募又は推薦をしようとするものは、所定の様式により行うものとする。

(被表彰者の決定)

第7条 被表彰者は、別に定める横浜環境活動賞審査委員会による審査を経て、市長が決定する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、環境創造局長が定める。

附 則

この要綱は、平成5年7月15日から施行する。

附 則

この要綱は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成17年12月22日から施行する。

附 則

この要綱は、平成22年1月13日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年8月25日から施行する。

## 横浜環境活動賞審査委員会運営要綱

制 定 平成 24 年 3 月 1 日 環創政第 907 号

## (趣旨)

第1条 この要綱は、横浜市附属機関設置条例(平成 23 年 12 月横浜市条例第 49 号)第4条の規定に基づき、横浜環境活動賞審査委員会(以下「委員会」という。)の組織、運営その他必要な事項について定めるものとする。

## (委員)

第2条 委員は、次に掲げる者のうちから市長が任命する。

- (1) 学識経験者
  - (2) 企業経営の経験を有する者
- 2 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員は、再任されることができる。
- 4 委員の代理は、認めないものとする。

## (委員長)

第3条 委員会に委員長1人を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 3 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長の指名する委員が、その職務を代理する。

## (会議)

第4条 委員会の会議は、委員長が招集する。ただし、委員長が互選されておらず、かつ、その職務を代理する者が指名されていないとき、若しくは委員長及びその職務を代理する者にとともに事故があるとき、又は委員長およびその職務を代理する者がともに欠けたときの委員会の会議は、市長が招集する。

- 2 委員長は、委員会の会議の議長とする。
- 3 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。
- 4 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

## (会議の公開)

第5条 横浜市の保有する情報の公開に関する条例(平成 12 年 2 月横浜市条例第 1 号)第 31 条の規定により、委員会の会議については、一般に公開するものとする。ただし、同条ただし書各号に該当する場合は、この限りでない。

## (意見の聴取等)

第6条 委員長は、委員会の会議の運営上必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くほか、資料の提出その他必要な協力を求めることができる。

## (庶務)

第7条 委員会の庶務は、環境創造局政策調整部政策課において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 24 年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この要綱の施行後最初に第2条第1項の規定により任命する委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、この要綱の施行の日から平成 25 年10 月 31 日までとする。

「応募用紙における確認欄」はあくまで主な参照例です。応募用紙のその他の欄の記載内容や、別添参考資料も参照してください。

第 22 回横浜環境活動賞審査基準 **市民の部**

1 審査基準

評価項目	評価の視点	配点	応募用紙における確認欄(参照例)
(1) 活動の継続性	<p>①過去の実績 活動期間が、概ね3年以上であるか。</p> <p>②将来性 活動が将来にわたり継続する見込みがあるか。</p>	5点	<p>①過去の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 応募者概要 中の「活動開始年」</li> <li>・ 2 最近3年間の主な活動</li> </ul> <p>②将来性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6 今後の活動方針</li> </ul>
(2) 地域への貢献度	<p>①地域住民の参加と自主性 地域住民の参加を得られているか。特に、課題意識を持つ地域住民などによって自主的に進めたり、独自に組織されているか。</p>	5点	<p><u>地域住民の参加</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 地域との関わり</li> <li>・ 4 団体の発足経緯／活動を始めたきっかけ、動機</li> </ul> <p><u>自主性</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 地域との関わり</li> </ul>
	<p>②他団体、学校、事業者、行政等との連携 活動が、他の市民団体、学校、事業者、行政等と連携して行われているか。</p>	5点	3 地域との関わり
(3) 活動の特色	<p>①先見性、広範性 横浜において新たな視点からの活動であるか。また、幅広い視野を持って活動を行っているか。 ※全国的に実施例があっても、横浜において新たな活動であった場合には評価対象とする。また、活動が幅広い分野に影響を及ぼすものについても評価対象とする。</p>	5点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 応募者概要 中の「活動の目的やねらい」</li> <li>・ 4 団体の発足経緯／活動を始めたきっかけ、動機</li> </ul>
	<p>②活動の成果、模範性 活動の成果が具体的に認められるか。また、他の模範となり、多くの人取り組みやすい活動であるか。</p>	5点	<p><u>活動の成果</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 最近3年間の主な活動</li> <li>・ 5 今までの活動(取組)や成果</li> </ul> <p><u>模範性</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 最近3年間の主な活動</li> </ul>

2 評価方法

- (1) 「評価の視点」(1)～(3)について、それぞれ点数化した結果をもとに評価を行い、受賞候補者を選定する。
- (2) 原則として25点満点中平均点15点以上を実践賞の対象とし、最高得点を大賞の候補として審査する。
- (3) 原則として、大賞は1者とする。
- (4) 過去において本賞の受賞歴のある市民及び団体が再応募した際の審査にあたっては、各々の項目について前回受賞時からの「発展性」を考慮する。

**第 22 回横浜環境活動賞審査基準** 企業の部

**1 審査基準**

評価項目	評価の視点	配点	応募用紙における確認欄(参照例)
(1) 取組姿勢、実績	①取組姿勢 事業所全体として前向きに取り組んでいるか。	5 点	2 環境に対する企業理念の設定、管理体制
	②過去の実績 原則として3年以上の実績があり、今後の継続性も見込める活動であるか。実績についての点検や改善、公表がされているか。	5 点	・ 1 応募者概要 中の「環境への取組を開始した年月」 ・ 2 環境に対する企業理念の設定、管理体制
(2) 環境保全・再生・創造への効果	①効果 環境保全・再生・創造に対する直接、間接的な効果が認められるか。	5 点	・ 3 環境に配慮した製品や技術開発、サービスの提供・導入 ・ 5 成果を上げている取組や先駆的・模範的な取組・事業
(3) 活動の特色	①地域社会等との連携、支援、参加 地域住民などと連携しながら、環境活動に積極的に取り組んでいるか。	5 点	4 事業活動において環境に配慮している取組、社会貢献活動
(4) 先駆性、模範性	①先駆性 横浜において先駆的な環境配慮型製品の開発や導入などを行っているか。 ※全国的に実施例があっても、横浜において新たな活動であった場合には評価対象とする。  ②模範性 他企業の模範となる活動であるか。(地域との連携等)	5 点	5 成果を上げている取組や先駆的・模範的な取組・事業

**2 評価方法**

- (1) 「評価の視点」について、それぞれ点数化した結果をもとに評価を行い、受賞候補者を選定する。なお、候補者が中小企業である場合には、その点を考慮する(大企業では例が見られるが、中小企業では先駆的等)。
- (2) 原則として 25 点満点中平均点 15 点以上を実践賞の対象とし、最高得点を大賞の候補として審査する。
- (3) 原則として、大賞は 1 者とする。
- (4) 過去において本賞の受賞歴のある企業が再応募した際の審査にあたっては、各々の項目について前回受賞時からの「発展性」を考慮する。

## 第 22 回横浜環境活動賞審査基準 児童・生徒・学生の部

### 1 審査基準

評価項目	評価の視点	配点	応募用紙における確認欄(参照例)
(1) 活動の継続性	<b>①過去の実績</b> ・活動期間が、概ね3年以上であるか。 ・月1回程度定期的に、または、夏休みなど集中的に活動が行われているか。	5点	<u>①過去の実績（活動期間）</u> ・ 1 応募者概要 中の「活動開始年」 ・ 2 最近3年間の主な活動  <u>②将来性</u> ・ 6 今後の活動方針
	<b>②将来性</b> ・活動が将来にわたり継続する見込みがあるか。 ・学校や地域、OB等によりサポートされているか。		
(2) 学内・地域への貢献度	<b>①学内等への貢献度</b> イベント開催、成果発表等により他の生徒・学生、や家庭へ活動の輪が広がっているか。	5点	・ 3 地域との関わり
	<b>②地域への貢献度</b> ・地域の活動を進め、地域住民や他団体・組織等の参加や連携を深めているか。 ・他の活動グループとの交流を進めているか。	5点	
(3) 活動の特色	<b>①自主性、独自性</b> ・児童・生徒・学生が主体となって活動が行われているか。 ・横浜において新たな視点からの活動であるか。また、幅広い視野を持って活動を行っているか。 ※全国的に実施例があっても、横浜において新たな活動であった場合には評価対象とする。 また、活動が幅広い分野に影響を及ぼすものについても評価対象とする。	5点	<u>自主性</u> ・ 5 今までの活動（取組）や成果  <u>独自性</u> ・ 4 団体の発足経緯、活動を始めたきっかけ
	<b>②活動の成果、模範性</b> 活動の成果が具体的に認められるか。他の模範となり、多くの人が取り組みやすい活動であるか。	5点	<u>活動の成果</u> ・ 2 最近3年間の主な活動 ・ 5 今までの活動（取組）や成果  <u>模範性</u> ・ 2 最近3年間の主な活動

### 2 評価方法

- (1) 「評価の視点」(1)～(3)について、それぞれ点数化した結果をもとに評価を行い、受賞候補者を選定する。
- (2) 原則として25点満点中平均点15点以上を実践賞の対象とし、最高得点を大賞の候補として審査する。
- (3) 評価にあたり、応募者の年齢を十分加味する。
- (4) 原則として、大賞は1者とする。
- (5) 過去において本賞の受賞歴のある児童・生徒・学生が再応募した際の審査にあたっては、各々の項目について前回受賞時からの「発展性」を考慮する。

## 第 22 回横浜環境活動賞審査基準 **生物多様性特別賞**

### 1 特別賞について

特別賞は、全応募者の中から、生物多様性の保全・再生・創造に特に貢献していると評価される者を表彰するものである。大賞、実践賞との重複受賞も可能とする。

### 2 受賞候補者の選出方法

- (1) 各委員が、評価基準にしたがって全応募者から 1 団体を推薦する。
- (2) 得票があった団体の中から候補者を選定する。

### 3 応募用紙における確認欄（参照例）

- (1) 市民の部 主に「6 生物多様性に関する取組」
- (2) 企業の部 主に「4 事業活動において環境に配慮している取組、社会貢献活動(3)生物多様性保全の取組」
- (3) 児童・生徒・学生の部 主に「6 生物多様性に関する取組」

### 4 評価基準

- (1) 日々の活動やイベントなどを通じ、「生物多様性」を一般に、特に子どもたちに対し、広く伝えることに貢献しているか。
- (2) 生き物がつながり、生息できる環境づくりを行っているか。
- (3) (1)、(2)を満たし、他の模範となり多くの人取り組みやすい活動であるなど、特に優れたものであるか。

#### **【活動例】**

- ・ 子どもたちを対象とした、生物多様性をテーマとした環境学習、自然観察会、その他イベントの開催等
- ・ 団体内における生物多様性を伝えるための人材育成
- ・ 希少野生動植物の保護
- ・ 団体管理の敷地内緑化や植樹また、緑化や植樹活動への参加
- ・ 敷地内のビオトープの整備・管理・活用
- ・ 生物多様性に配慮した里山管理

等

# 第22回横浜環境活動賞

## 応募者概要

注)本資料は審査資料ではありません。傍聴者用の参考資料です。

○本概要は、提出された応募資料から記載内容を抜粋したものです。

### ≪抜粋内容≫

#### ○市民の部

「応募者名」、「推薦者名(他薦の場合)」、「活動地域」、「活動の目的やねらい」、  
「最近3年間の主な活動」、「審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント」

#### ○企業の部

「応募者名称」、「推薦者名(他薦の場合)」、「所在区」、「事業内容」、  
「環境に関する基本理念・自己宣言等」、「成果を上げている取組や先駆的・模範的な取組」  
「審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント」

#### ○児童・生徒・学生の部

「応募者名」、「推薦者名(他薦の場合)」、「活動地域」、「活動の目的やねらい」、  
「最近3年間の主な活動」、「審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント」

○審査には、本概要ではなく、各応募者提出の応募用紙及び参考資料一式を用いています。

○各応募者の詳細資料については、閲覧用として会場にご用意してあります。数に限りがあるため、  
ゆずりあって閲覧いただきますよう、お願いします。

## 目 次

### 市民の部

通し番号	応募者名 (五十音順、敬称略)	掲載ページ
1	旭図書館 グリーンボランティア	p. 2
2	一本橋メダカ広場水辺愛護会	p. 3
3	上笹下地区竹の子育成の会	p. 4
4	グリーンサポーターズいそご	p. 5
5	慶應義塾大学日吉丸の会	p. 6
6	中川ルネッサンスプロジェクト会	p. 7
7	大豆戸菊名打ち水大作戦実行委員会	p. 8

### 企業の部

1	生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ新横浜本部	p. 9
2	リスト株式会社	p. 10

### 児童・生徒・学生の部

1	フェリス女学院大学 エコキャンパス研究会	p. 11
2	横浜市立港南台第三小学校	p. 12
3	横浜市立大学環境ボランティア Step Up ↑	p. 13

## 1 旭図書館 グリーンボランティア

推薦者名	旭図書館長 廣瀬 貞男	
活動地域	旭区	
活動の目的やねらい	図書館開館25周年を契機に「環境にやさしい図書館づくり」の一環として、平成24年3月屋上緑化が実現した。花苗植え・水やり・花がら摘み・除草等の作業を通じて、園芸技術の向上と環境美化に貢献したい。	
最近3年間の主な活動	平成23年度	旭図書館グリーンボランティア説明会
	平成24年度	1 グリーンボランティア活動開始 2 活動担当曜日の制定 3 花苗植替作業 4 オープン・ガーデン開催
	平成25年度	1 春のオープン・ガーデン開催 2 花苗植替作業 3 秋のオープン・ガーデン開催
審査にあたり、最も注目してもらいたい取組・PRポイント	<p>平成24年3月に屋上庭園が実現し、約184㎡の庭に40余種類の植物が植えられました。</p> <p>平成24年6月から日々の管理の必要性を鑑み、水やり・花がら摘み・除草等の作業がボランティアに、その任が委ねられました。作業シフトは月曜日から金曜日を2名1組で水やり・花がら摘み・除草等を行います。</p> <p>植物の成長を支えるためにはボランティア個々が根気よくコツコツと活動し、花苗をしっかりと育てて花を咲かせ緑を育てることは、ボランティア仲間の心の潤いとなります。特に芝生を良好な状態に保つためには「費用をかけるか」または「人手をかけるか」どちらかがないと駄目とされています。当然費用をかける訳にはいかないので、グループ全員の「人手をかける」ということが生きています</p> <p>夏の猛暑の水遣り、酷寒の中での雪害対策また、年4回の花苗植替え作業並びに春・秋のオープンガーデン開催を通じてボランティア意識の協働性の強調を深めています。横浜市立こども植物園での学習なども取り入れて園芸知識の向上を図ることを模索しております。</p>	

## 2 一本橋メダカ広場水辺愛護会

推薦者名	-	
活動地域	緑区 梅田川周辺	
活動の目的やねらい	自然環境を守り、地域の活動を活性化する	
最近3年間の主な活動	平成 23 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・梅田川の清掃</li> <li>・梅田川の除草</li> <li>・新治小学校の稲作指導</li> <li>・ほたる守り隊</li> <li>・こども川の日イベント手伝い</li> <li>・新治里山公園竹間伐</li> </ul>
	平成 24 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・梅田川の清掃</li> <li>・梅田川の除草</li> <li>・新治小学校の稲作指導</li> <li>・新治小学校の川掃除指導</li> <li>・ほたる守り隊</li> <li>・こども川の日イベント手伝い</li> <li>・新治里山公園竹間伐</li> <li>・新治恵みの里事業の「農的景観保全事業」に参加</li> </ul>
	平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・梅田川の清掃</li> <li>・梅田川の除草</li> <li>・新治小学校の稲作指導</li> <li>・新治小学校の川掃除指導</li> <li>・ほたる守り隊</li> <li>・こども川の日イベント手伝い</li> <li>・新治里山公園内調整池のウシガエル駆除</li> <li>・新治恵みの里事業の「農的景観保全事業」に参加</li> </ul>
審査にあたり、最も注目してもらいたい取組・PRポイント	<p>モクズガニはジャガゴの設置（第5次河川改修）で今年から増えてきました。前述のホタルは頭数も大幅に増えた（H24：148頭、H25：204頭、H26：370頭）ことに加え、飛び交う範囲が500m位広がり（円光寺前まで）、地域の人々からは大喜びされています。</p>	

## 3 上笹下地区竹の子育成の会

推薦者名	-	
活動地域	磯子区	
活動の目的やねらい	磯子自然村裏側市有地（旧氷取沢小の跡地）の竹林の「竹の子」を育成、管理し、地域のふれあい・体験・健康づくりを図る。イベントを開催することで生物多様性環境、自然を守る等を習得し、次世代交流を深める地域全体を活動する。	
最近3年間の主な活動	平成 23 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会の設立</li> <li>・竹林通路の整備</li> <li>・古竹の除去</li> <li>・竹の間引き</li> </ul>
	平成 24 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹の子の試掘</li> <li>・竹林通路の整備</li> <li>・竹の間引き</li> <li>・古竹の除去、整理</li> <li>・肥料撒き</li> </ul>
	平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月「第1回竹の子堀大会」開催</li> <li>・通路の整備</li> <li>・竹林の間引き</li> <li>・古竹の除去、整理、処分</li> <li>・肥料撒き</li> </ul>
審査にあたり、最も注目してもらいたい取組・PRポイント	「自然とのふれあい」「自然の育成」「自然を守る」「自然からの恩恵」「自然リサイクル」等を体験し、次世代交流を拡大チャンス化して地域の輪を一層大きくしたい。	

## 4 グリーンサポーターズいそご

推薦者名	磯子区磯子土木事務所長 伊藤 紀明	
活動地域	磯子区	
活動の目的やねらい	公共施設で植栽等の管理作業をすることによって緑の保護育成に関わる技術を身につけ、また、緑の管理を行う知識や技術を会員が相互に教えあい、より高度な緑の環境に関する活動を行えることを目的として、磯子区内で緑に関するボランティア活動を行っています。	
最近3年間の主な活動	平成 23 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・久良岐能舞台日本庭園の手入れ</li> <li>・磯子区役所植栽の手入れ</li> <li>・磯子海の見える公園の植栽の手入れ</li> <li>・洋光台西公園の草刈り</li> <li>・梅の剪定等の研修受講 等</li> </ul>
	平成 24 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洋光台西公園の梅の再生活動</li> <li>・久良岐能舞台飛び石の再設置・日本庭園の手入れ</li> <li>・磯子区役所植栽の手入れ</li> <li>・磯子海の見える公園の植栽の手入れ 等</li> </ul>
	平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洋光台西公園の梅の再生活動</li> <li>・久良岐能舞台日本庭園の手入れ</li> <li>・磯子区役所植栽の手入れ</li> <li>・磯子海の見える公園の植栽の手入れ 等</li> </ul>
審査にあたり、最も注目してもらいたい取組・PR ポイント	<p>洋光台連合自治会からの依頼を受け、磯子区の木である梅を多く植樹し梅まつりを行うなど地域に親しまれている洋光台西公園の梅の木に元気を取り戻させる取組の地域貢献や</p> <p>久良岐能舞台での日本庭園の手入れ、飛び石の再設置等の緑の管理に関する技術力の高さがグリーンサポーターズいそごの自慢です。</p>	

## 5 慶應義塾大学・日吉丸の会

推薦者名	慶應義塾大学 社会・地域連携室 事務長 高橋 剛	
活動地域	港北区	
活動の目的やねらい	慶應義塾大学日吉キャンパス・まむし谷における雑木林・水辺の再生、生物多様性の保全	
最近3年間の主な活動	平成 23 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慶應義塾大学日吉キャンパス 一の谷・池の平の雑木林・水辺再生</li> <li>・鶴見川流域クリーンアップ作戦への参加</li> <li>・冊子「一の谷の風」の発行</li> <li>・通信「一の谷の風」の発行</li> </ul>
	平成 24 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度実施活動の継続</li> <li>・ひよ池（防災調節池）のビオトープ化</li> <li>・通信「一の谷の風」の発行</li> </ul>
	平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度実施活動の継続</li> <li>・鶴見川流域水マスタープラン推進サポーター研修の受け入れ</li> <li>・通信「一の谷の風」の発行</li> </ul>
審査にあたり、最も注目してもらいたい取組・PRポイント	<p>当会の活動は、特に市街地で日吉キャンパス周辺のような地形（多摩三浦丘陵）を有する横浜市をはじめとした地域において、地球温暖化時代に、緑地を活かして生物多様性を保全しつつ、安全・安心を確保するまちづくりのモデルになると考えている。</p> <p>日吉キャンパスの自然とランドスケープ（大地の凸凹）をベースに、地域の課題に対して、市民、市民団体、行政、NPO、鉄道会社・商店などの地域企業等と連携して解決をはかっていくというスタイルも、他地域でも実践可能なモデルになると考えている。</p> <p><u>※参考資料として、以下3点を添付します。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考資料1：2014年5月31日（土）散歩会『まむし谷・松の川 みどりの道歩き』（東急電鉄みど*リンク アクション関連イベント）／セミナー『日吉キャンパスと地球温暖化適応策』 活動レポート</li> <li>・参考資料2：当会発行の通信「一の谷の風」43号</li> <li>・参考資料2：当会発行の通信「一の谷の風」44号（最新号）</li> </ul>	

## 6 中川ルネッサンスプロジェクト会

推薦者名	-	
活動地域	都筑区中川1丁目中川駅前商業地区	
活動の目的やねらい	活気を失った中川駅前商業地区を周辺の緑道、里山と繋がる花と緑に溢れ、人が交流する魅力的なまちとして復活させ、地域の中心を作る。	
最近3年間の主な活動	平成23年度	中川駅前商業地区の魅力アップと活性化の検討
	平成24年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中川ルネッサンスプロジェクトプランの作成</li> <li>・まち普請コンテストへの応募</li> <li>・地域団体への協力依頼</li> <li>・広報の発行「ぐるっと緑道遊歩道」</li> </ul>
	平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中川ルネッサンスプロジェクトプロジェクトプランの実施</li> <li>・広報の発行「ぐるっと緑道遊歩道」</li> <li>・「みどりの香るまちづくりコンテスト」応募</li> </ul>
審査にあたり、最も注目してもらいたい取組・PRポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中川駅前商業地区を周辺すばらしい緑豊かな遊歩道や里山と結びつけ魅力アップを図るべく、商業地区内の遊歩道に30以上の花壇をつくり、広場にはシンボルツリーやベンチ、ステージを配置し、2kmの回遊路「花と緑の散歩道」も作り、花、緑、香りを楽しめるまちづくりを行った。(添付「花と緑の散歩道MAP」参照)</li> <li>・また、近くの緑地公園にナーサリーを作り、遊歩道の花壇に花苗を供給する仕組みを作った。</li> <li>・これらの企画が、環境省主催の「第8回みどりの香るまちづくりコンテスト」で環境大臣賞を受賞した。</li> <li>・地域住民が花に親しむイベントを開催している</li> </ul>	

## 7 大豆戸菊名打ち水大作戦実行委員会

推薦者名	港北区役所地域振興課長 椽木誠司	
活動地域	港北区	
活動の目的やねらい	①打ち水により、地球温暖化防止の意識を高める ②自分たちの住む地域の歴史に関心を持つきっかけを作る ③地域の諸団体が協力して行事に取り組み、交流を深める	
最近3年間の主な活動	平成 23 年度	まめどまめ作戦 大豆戸菊名打ち水大作戦 エコを学ぶ勉強会 太陽光発電見学会 まめど・きくな・水 Vol.1
	平成 24 年度	まめどまめ作戦 大豆戸菊名打ち水大作戦 エコを学ぶ勉強会 太陽光発電見学会 菊名川を歩こう！ まめど・きくな・水 Vol.2
	平成 25 年度	まめどまめ作戦 大豆戸菊名打ち水大作戦 太陽光発電見学会 放射線量調査隊 エコを学ぶワークショップ わが街再発見！港北街歩き まめど・きくな・水 Vol.3
審査にあたり、最も注目してもらいたい取組・PRポイント	活動のスタートは打ち水大作戦でしたが、この活動を継続することで町内会、自治会、クラブ 子ども会、保育園、幼稚園、小学校など幅広く子どもたちと積極的に活動を拡大して 環境問題をまち歩きなどで地域の歴史を学び、太陽光発電など施設を見学したり、学 物の 育成を通して自然を学ぶなど地域の資源を多方面から見つめて体験を通して考え学 びます。	

## 1 生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ 新横浜本部

推薦者名	-
所在区	港北区
事業内容	パルシステムPB商品等の個人宅配事業) 福祉事業、など
環境に関する 基本理念・ 自己宣言等	理念 生命をいつくしみ、自立と協同の力で、心豊かな地域社会を創りだします。
成果を上げている 取組や先駆的・ 模範的な取組	節電ポイントキャンペーンの実施 (主催：新横浜本部)
審査にあたり、最 も注目してもらい たい取組・PR ポイ ント	新横浜本部では、組合員一人ひとりの取り組みの力は、小さいかもしれませんが、環境への配慮した人が増え、まとまった力となれば、大きな影響力を持つと考えています。こうした考えの元、事業所内に限定した環境推進ではなく、組合員を巻き込み、多くの人に参加していただく事を意識して、様々な環境取組を推進しています。

## 2 リスト株式会社

<p>推薦者名</p>	<p>【岩室晶子：NPO 法人ミニシティ・プラス副理事長】          【常磐欣二：東戸塚地区連合町内会会長 兼 品濃町町内会会長】          【馬見塚健一：一般社団法人スポーツ GOMI 拾い連盟 理事長】</p>
<p>所在区</p>	<p>中区</p>
<p>事業内容</p>	<p>マンション・戸建住宅の企画・開発・分譲、不動産の売買・賃貸の仲介他</p>
<p>環境に関する 基本理念・ 自己宣言等</p>	<p>【リストグループ環境指針】          リストグループは、地域に長く住まう人々の未来を考え、環境保護に配慮した活動を積極的に推進いたします。          〈クレドの環境宣言〉 人と人、人と街、人と社会をつないで、世界中のあらゆる地域の元気づくりに貢献します。          ＊この「地域の元気」には環境を元気にする環境活動を含みます          〈戸建て分譲事業の環境方針〉 未来のよりよい住環境をつくるために、エコロジー&amp;エコノミーな太陽光発電を積極的に取り入れています。          〈マンション分譲事業の環境方針〉 建物自体の劣化対策太陽光発電生活水全部をミネラル活性水に変える浄水システムを積極的に取り入れます。          〈グリーン電力購入宣言〉 グリーン電力の購入により、リストレジデンスに住まう方の“1人1日1kg”のCO2を削減します。</p>
<p>成果を上げている 取組や先駆的・ 模範的な取組</p>	<p>〈戸建て分譲事業〉LGD P          ・日本初のEVカーシェア／・YGPエコタウン初認定／・街の緑量大幅増／・市内初の太陽光標準装備／・CASBEE Sランク取得／・市内最大のエコタウン／・エネファーム標準装備／・新旧団地協働イベント／・全住協優良事業表彰／・不動産学会「田中啓一賞」          〈マンション分譲事業〉          ・LR鶴見／・上大岡TTR受賞／・LR辻堂タワー受賞／・LR上大岡：市内初          〈全社〉スポーツGOMI拾い</p>
<p>審査にあたり、最も注目してもらいたい取組・PRポイント</p>	<p>【原点】          全ての原点は2000年に初の支店開設となった東戸塚での駅前清掃にあります。従業員による自発的な取組としてスタートしたこの活動の地道な継続が、従業員の環境意識及び周囲の方々への感謝の意識を高め、その積み重ねとして今日の事業展開があると考えています。          【企業姿勢】 弊社は横浜で生まれ育った不動産企業として、横浜市から逃げることが出来ません。不動産業者の悪弊として 巷間言われる「売りっ放し」も弊社は出来ません。そのポジションを前向きに捉えた事業展開を継続しています。          【不動産事業】 戸建やマンションなどの不動産開発事業においては、案件の企画開発段階から建築資材・機材の選定・施工まで 広範囲で多種多様な環境に関わる場面があります。その中で、零細企業にはない規模のメリットと大企業では 難しいフットワークの良さを生かし地元と共生することを徹底することが弊社の生命線と捉え事業活動中です。それが様々な「初」案件が生まれる原動力となっています。          【地元密着～環境意識向上への貢献】 地元根付くことが原点である不動産事業者として、ここ数年は地域住民の方々からのご希望等も取り入れ、様々な少年スポーツ等の応援（協賛）も増えてきて、より本業に近い所と密接に連携することを模索する中で スポーツGOMI拾いという機会を得て、その推進により「環境」意識の源となる「地元地域」への意識向上に 微力ながらお役に立つことが出来れば幸甚です。</p>

1 フェリス女学院大学 エコキャンパス研究会

推薦者名	-	
活動地域	学校内・学校外・その他（インドネシア共和国、ツバル、キリバス共和国）	
活動の目的やねらい	フェリス女学院大学・緑園キャンパスでは、環境関連の授業が充実しているほか、風力発電や太陽光発電などのエコ施設がいたるところに備え付けられています。そんなエコキャンパスの中で 私たちエコキャンパス研究会は、意味のある環境活動、そして文系の女子大生にもできる環境活動を目指し、学生たち皆で新しい企画を持ち寄り、意見を出し合ったりしながら主体性を重視して活動しています。	
最近3年間の主な活動	平成 23 年度	東日本大震災で省エネ運動 マイボトル・キャンペーン 自然観察の親子講座 小学生をエコキャンパス案内 自然エネルギー親子講座 自然エネルギーの本を出版 横浜市立新田中学校で講演
	平成 24 年度	平和のための戦争展で講演 香川県直島の地域活性化調査 自然観察の親子講座 自然エネルギー親子講座 大学祭への出展 みどりアップのイベント運営 自然エネルギー親子講座 マイボトル・キャンペーン キリバスの小学校に雨水タンクを2基寄贈
	平成 25 年度	市川市環境フェアのお手伝い 自然観察の親子講座 自然エネルギー親子講座 講演会で登壇 大学祭で出展 みどりアップのイベント運営 マイボトル用の自販機企画 緑園自治会をキャンパス案内
審査にあたり、最も注目してもらいたい取組・PRポイント	私たちエコキャンパス研究会は「環境問題」や「エコ」の専門的で堅いイメージを取り払い、より多くの人々が気軽に楽しくエコに参加できる活動を目指しています。そのために様々な分野の企業や団体とコラボしており エコに関心のなかった人たちにも興味を持ってもらえるよう挑戦している姿勢を注目していただきたいです。	

2 横浜市立港南台第三小学校

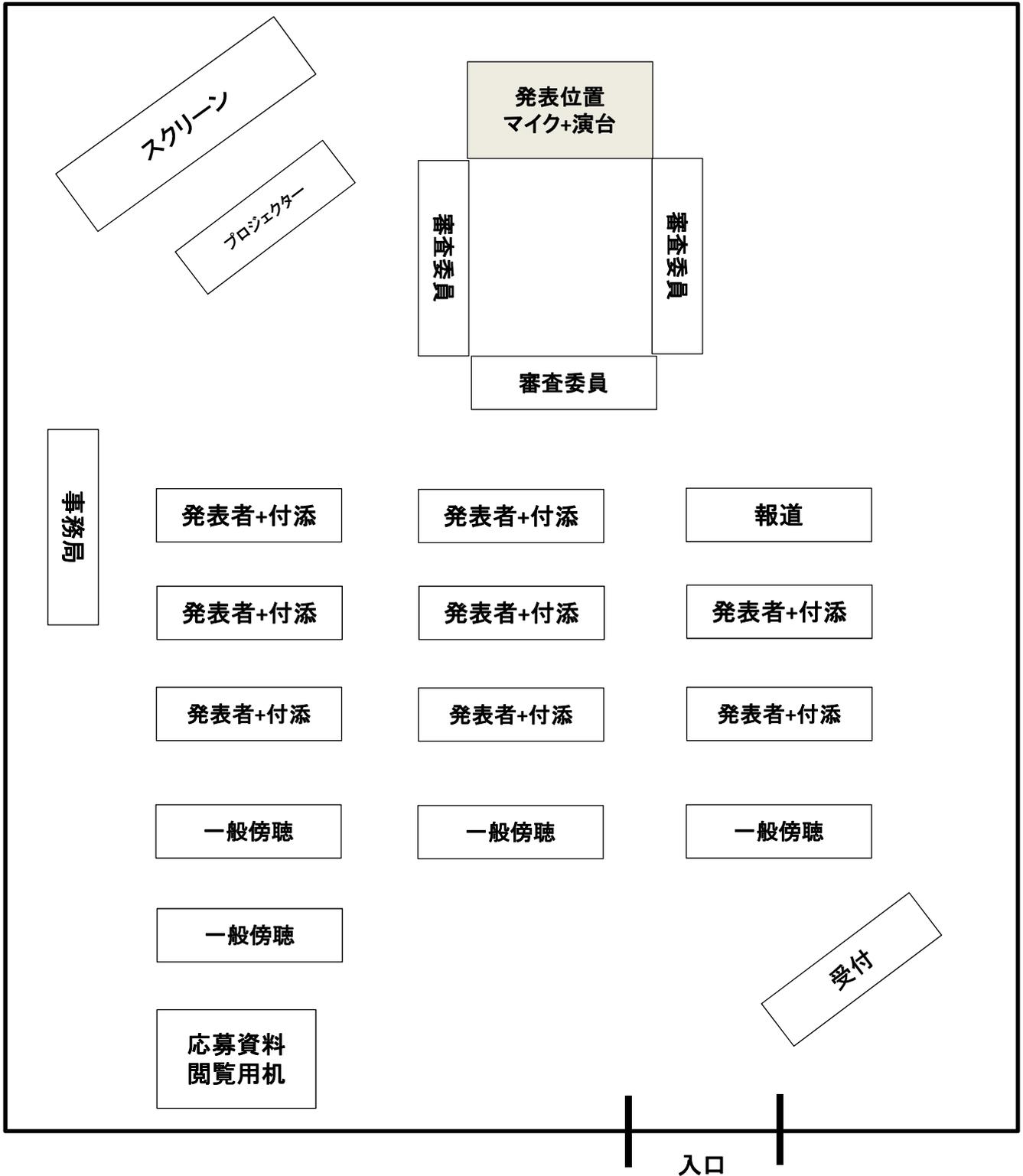
推薦者名		-
活動地域		学校内
活動の目的やねらい		子どもたちにとって身近な環境について考え、環境に働きかける事を通して、子どもたちの主体的な関わりや問題解決の力を培っていくこと。
最近3年間の主な活動	平成 23 年度	
	平成 24 年度	
	平成 25 年度	三小流水地復活プロジェクト
審査にあたり、最も注目してもらいたい取組・PR ポイント		身近な環境を見つめることにより、子どもたちが自ら課題を見つけ、解決していく事を通して、共に生き生きと学ぶ中で友だちの良さに気づき互いが認め合い、自己の良さを見つけ出し、共に高め合っていく子どもたちの姿を見ることができ活動となったこと。これからの継続的な活動が期待できること。

### 3 横浜市立大学環境ボランティア Step Up ↑

推薦者名		-
活動地域		学校内、学校外
活動の目的やねらい		環境に対する意識の向上・地域の活性化 活動理念【学生が出来る身近な環境活動を考え、行動する】
最近3年間の主な活動	平成 23 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学園祭におけるゴミ分別指導・リユースカップ管理（通年行事）</li> <li>✓ ビアガーデンでの分別指導（通年行事）</li> <li>✓ ビーチクリーン（通年行事）</li> <li>✓ エココン、ハマコンへの参加（毎年参加。通年行事）</li> <li>✓ 第一回 Eco Change!ヨコイチ!（エコヨコ）</li> <li>✓ その他清掃活動</li> </ul> ※通年行事は以下省略
	平成 24 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 第二回 Eco Change!ヨコイチ!</li> <li>✓ ヨコハマ大学祭りへの参加</li> </ul>
	平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 第三回 Eco Change!ヨコイチ!</li> <li>✓ 「寺子屋塾」の開催</li> <li>✓ ヨコハマ大学祭りへの参加</li> <li>✓ ホールアース自然学校との企画合宿</li> <li>✓ 3R 夢環境教室@横浜市内の保育園幼稚園</li> </ul>
審査にあたり、最も注目してもらいたい取組・PR ポイント		<p>環境活動をあくまで楽しく行えるように取り組んでいる。これにより、部員と学内の生徒が気軽に取り組みの輪に入ることができ、継続的な活動を行うことができる。これまでは、学内の活動を重視してきたが、学外でも行える取り組みを模索し、地域とも協力して新たなイベントにも参加し始めた。また、反省点があれば積極的に改善していく前向きな姿勢を持っている。今年度からは部員も増えたため、組織体系を調整して今後はさらなる活動の前進が期待できる。</p>

# 第22回 横浜環境活動賞審査委員会 会場図

横浜市開港記念会館 9号室



第22回横浜環境活動賞審査委員会  
プレゼンテーション 発表順一覧

通し番号	応募者名 (五十音順、敬称略)	部門
1	旭図書館 グリーンボランティア	市民
2	一本橋メダカ広場水辺愛護会	市民
3	上笹下地区竹の子育成の会	市民
4	グリーンサポーターズいそご	市民
5	慶應義塾大学日吉丸の会	市民
6	中川ルネッサンスプロジェクト会	市民
7	大豆戸菊名打ち水大作戦実行委員会	市民
8	生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ新横浜本部	企業
9	リスト株式会社	企業
10	フェリス女学院大学 エコキャンパス研究会	児童・生徒・学生
11	横浜市立港南台第三小学校	児童・生徒・学生
12	横浜市立大学環境ボランティア Step Up ↑	児童・生徒・学生

## 第 22 回横浜環境活動賞 今後の流れについて

(受賞候補者の方へのお願い事項)

日 程	内 容
4 月中旬 (予定)	受賞者の正式決定 [ 事例集・パネル原稿の執筆について依頼 しますので、ご対応をお願いします ]
6 月 11 日 (木)	表彰式 (横浜市開港記念会館 講堂) ポスターセッション (横浜市開港記念会館 1 号室) ※表彰式会場にて事例集の配付、パネルの 展示を行います。
6 月 25 日 (木) ~ 7 月 1 日 (水)	クロスパティオ (みなとみらい) にて パネル展示
6 月 27 日 (土)	環境行動フェスタ [ 市民の部、児童・生徒・学生の部「大賞」 及び、生物多様性特別賞の 受賞者の方は、ブースの出展に御協力をお願い いたします ]

※詳細内容については後日、受賞決定通知と合わせ正式に依頼します。

※第13回までの名称は「横浜環境保全活動賞」

第1回・5年度	市民	横浜にとんぼを育てる会 帷子小ウォッチングクラブ モルフォ生物同好会 横浜・ゴミを考える連絡会 横浜自然観察の森友の会 大岡川の再生をすすめる会	第7回・11年度	市民	あおばく・川を楽しむ会 アゲイン瀬谷 和泉川源流を楽しむ会 港南台自然観察クラブ・ククロ ソフトエネルギープロジェクト
	企業	日本電気株式会社横浜事業場 東洋製罐株式会社横浜工場 株式会社東芝生産技術研究所 生活協同組合コープかながわ		企業	石川島播磨重工業株式会社横浜事業所 株式会社東芝横浜事業所 株式会社フジタ横浜支店 武蔵工業大学環境情報学部
第2回・6年度	市民	海をつくる会 鴨池公園愛護会 けやきが丘森林愛護会 横浜市牛乳パックの再利用をすすめる連絡会 寺家ふるさと村体験農業振興組合 フリーマーケット「緑区民ふれあい市場」緑実施世話人会	第8回・12年度	市民	大岡川 Fun Club 市沢・仏向の谷戸に親しむ会 みどりの学校 横浜自然観察の森友の会 雑木林ファンクラブ 早淵川をかなでる会 上山ふれあいの樹林愛護会
	企業	相鉄ローゼン株式会社 東京電力株式会社神奈川支店鶴見支社 日本鋼管株式会社鶴見製作所		企業	神奈川機器工業株式会社 本社・工場 東京ガス株式会社 環境エネルギー館 東京ガス株式会社 根岸工場 東京電力株式会社 西火力事業所横浜火力発電所 日立湘南電子株式会社 本社工場 三菱重工業株式会社 横浜製作所
第3回・7年度	市民	三ツ沢せせらぎ緑道のぼたるを育てる会 自然に学ぶ会 ファイバーリサイクルネットワーク 中田ふれあいの樹林愛護会 峰岡町二丁目自治会	第9回・13年度	市民	荒井沢市民の森愛護会 かなざわ森沢山の会 宮沢の森愛護会 特定非営利活動法人 よこはま水辺環境研究会
	企業	大成建設株式会社横浜支店 ムラタ計測器サービス株式会社 株式会社イトーヨーカ堂(上永谷店他8店) 生活クラブ生活協同組合・神奈川		企業	株式会社CRC総合研究所データセンター事業部 川本工業株式会社 株式会社 サカクラ 株式会社 リコー中央研究所 株式会社 ニコン横浜製作所
第4回・8年度	市民	戸塚ホテル研究会 恩田の谷戸ファンクラブ ラブリバートリップ大岡川 並木谷堆肥利用組合 ふるさと侍従川に親しむ会	第10回・14年度	市民	野庭・馬洗川自然愛護会 みどり・川と風の会
	企業	株式会社エフピコ横浜営業所 麒麟ビール株式会社横浜工場 日本石油精製株式会社根岸製油所 みなとみらい21リサイクル推進協議会		企業	日本発条株式会社 横浜事業所 東京ガス株式会社 扇島工場 株式会社 ダイイチ 済生会横浜市南部病院
第5回・9年度	市民	エコ・ライフいずみ リフォーム横浜会 泉の森ふれあい樹林愛護会 白幡緑の会 横浜市氷取沢小学校PTA牛乳パック・リサイクルの会 港北区牛乳パック回収グループ	第11回・15年度	市民	EM花の会 神奈川森林エネルギー工房 北八朔公園愛護会 港北ニュータウン緑の会 横浜植物会
	企業	株式会社日立製作所横浜地区 株式会社オオスミ ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル 三菱地所株式会社横浜事業部(横浜ランドマークタワー)		企業	株式会社 竹中工務店横浜支店 工藤建設株式会社 株式会社 ユニキャット 株式会社 アベックスディーピーエフシステム 横浜市資源リサイクル事業協同組合 綱島商店街連合会
第6回・10年度	市民	鶴見川を再発見する会 HAB21イルカ研究会 松の川遊歩道(緑道)の会 白根竹の森運営委員会 港北くらしの研究会 相沢川を考える会	第12回・16年度	市民	和泉の森を育む会 梅田川水辺の楽校協議会 桜ヶ丘・森の仲間たち 野島自然観察探見隊
	企業	株式会社テルム本社 株式会社熊谷組横浜支店 株式会社日立製作所情報通信事業部 横浜市廃冷蔵庫フロン回収・処理推進協議会 松下通信工業株式会社(佐江戸工場・綱島工場)		企業	東京電力株式会社 西火力事業所 南横浜火力発電所 三菱電機ビルテクノサービス株式会社 横浜支社 日本ビクター株式会社 本社・横浜工場 タカナン乳業株式会社 横浜工場 日産自動車株式会社 横浜工場

第13回・17年度	市民	和泉川東山の水辺愛護会 瀬谷市民の森愛護会 新治市民の森愛護会 神奈川県環境学習リーダー・エネルギー会 横浜メダカの会
	企業	東京電力(株)神奈川支店 (株)京急百貨店 フェリス女学院大学 千代田化工建設(株)
第14回・18年度	市民	いかだで遊ぼう谷本川実行委員会 和泉川中央水辺愛護会 カマリヤン倶楽部 上矢部まちづくりの会 亀谷戸せせらぎ水辺愛護会 鴨居原市民の森愛護会 ナウシカの会 平湯湾クリーンアップキャンペーン実行委員会 富士見水辺愛護会 保土ヶ谷フリーマーケット実行委員会 本郷ふじやま公園運営委員会 特定非営利活動法人 ヨコハマ倉造空間 特定非営利活動法人 楽竹会
	企業	東京ガス株式会社 神奈川支店 若築建設株式会社 横浜支店
	児童・生徒・学生	上矢部まちづくり子ども実行委員会 ガールスカウト神奈川県第8団 関東学院大学・環境サークルHEP(ヘップ) 横浜市立大道小学校・ふるさとの水辺クラブ 横浜市立西柴小学校・西柴アマモ隊 武相中学高等学校・生徒会 横浜市立山元小学校・農園委員会
第15回・19年度	市民	磯子区環境を考える会 長津田小学校野草園ボランティア 堀割川魅力づくり実行委員会 もえぎ野ふれあいの樹林愛護会 横浜野菜推進委員会
	企業	国立大学法人横浜国立大学 ハナソニック・モバイルコミュニケーションズ(株)佐江戸事業所
	児童・生徒・学生	下永谷小学校卒業生クラブ 鶴見大学生物部 横浜国立大学附属横浜中学校ブルーアースサミット
第16回・20年度	市民	金沢八景—東京湾アマモ場再生会議 上郷森の会 栄さとやまもりの会 大曾根の自然を楽しむ会 同愛会リプラス 獅子ヶ谷緑地保全会 関ヶ谷市民の森愛護会
	企業	前田建設工業株式会社 横浜支店 有限会社 マルニ商店
	児童・生徒・学生	横浜市立本郷中学校科学部 戸塚まつり準備会 金沢八景クラブ

第17回・21年度	市民	新井町公園愛護会 飯田雀のお宿 まゆの会 NPO法人 Waveよこはま こどものためのオープンハウス 日本の竹ファンクラブ 南瀬谷中学校PTA 洋光台まちづくり協議会 青少年夢環境部会
	企業	株式会社岡村製作所 企画本部情報システム部
第18回・22年度	児童・生徒・学生	横浜市立浦島丘中学校 生徒会 神奈川県立荏田高等学校(1学年) 神奈川県立新羽高等学校 生徒会 環境整備委員会 横浜祭運営委員会(Y. F. A)
	市民	「大賞」 市沢・仏向の谷戸に親しむ会 「実践賞」 北八朔公園愛護会 いたち川と親しむ会 瀬上の森パートナーシップ(SMP) 鴨居駅周辺まちづくり研究会 鶴見川下流ネットワーク・鶴見 都田江川水辺愛護会 若葉台連合自治会 瀬谷環境ネット 奈良川源流域を守る会 福田誠一郎
	企業	「大賞」 株式会社大川印刷 「実践賞」 横浜消火器株式会社 株式会社 横浜フリースポーツクラブ 岩井の胡麻油株式会社 スーパーホテル横浜・関内 旭硝子株式会社 中央研究所 株式会社 野毛印刷社 東京電力株式会社 横浜支社
第19回・23年度	児童・生徒・学生	「大賞」 横浜市立汐見台中学校・環境美化委員会と全校生徒 「実践賞」 横浜市立朝比奈小学校・わくわくホテル池守り隊
	市民	「大賞」 特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーク 「実践賞」 海をつくる会 鶴見川舟運復活プロジェクト 松の川遊歩道(緑道)の会 めっちゃどろクラブ
	企業	「大賞」 麒麟ビール株式会社 横浜工場 「実践賞」 生活協同組合連合会 ユーコープ事業連合 トレッサ横浜
「生物多様性特別賞」	児童・生徒・学生	「実践賞」 横浜市立十日市場中学校、及び、地域交流事業実行委員会 横浜市立南中学校 アジサイクラブ 横浜市立南希望が丘中学校 ビオトープ特別委員会
	市民	特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーク 横浜市立南希望が丘中学校 ビオトープ特別委員会

第 20 回 ・ 24 年 度	市民	<b>「大賞」</b> トンボはドコまで飛ぶかフォーラム <b>「実践賞」</b> あおば学校支援ネットワーク あおば発エコ大作戦 実行委員会 大塚・歳勝土遺跡公園愛護会 トンボみちファンクラブ ファイバーリサイクルネットワーク 緑区霧が丘六丁目自治会 弥生台のせせらぎとホテルを守る会 横浜市都田第一土地改良区「不法投棄やめさせ隊」 特定非営利活動法人 楽竹会
		<b>「大賞」</b> 株式会社横浜八景島 <b>「実践賞」</b> ia corporation株式会社 金沢事業所 アズビル株式会社ビルシステムカンパニー横浜支店 株式会社オカムラ物流 横浜物流センター JFEエンジニアリング株式会社 鶴見製作所 JFE環境株式会社 東京ガス株式会社神奈川支社横浜支店 ナイス株式会社 東日本電信電話株式会社 神奈川支店
	児童・生徒	<b>「大賞」</b> 横浜市立戸部小学校 とべエコクリーン委員会 <b>「実践賞」</b> 横浜市立芹が谷中学校 環境活動部 横浜市立新羽中学校 自然科学部 横浜市立三保小学校
	<b>「生物多様性特別賞」</b> トンボはドコまで飛ぶかフォーラム	
第 21 回 ・ 25 年 度	市民	<b>「大賞」</b> 新横浜町内会 <b>「実践賞」</b> 泉区農業応援隊 NPO法人 海の森山の森事務局 青少年みどり遊楽舎 綱島バリケン島プロジェクト 特定非営利活動法人こどもリクラブ 水辺愛護会帷子川はふるさとの川の会 横浜緑の推進団体港北区連絡会 (「皇帝ダリアを咲かせようin港北プラス1」)
		<b>「大賞」</b> プリンズ電機株式会社 <b>「実践賞」</b> 株式会社ノーリツ 神奈川支店 株式会社ファンケルスマイル 生活協同組合ユーコープ 大成建設株式会社技術センター 三井不動産株式会社 横浜支店 三井不動産レジデンシャル株式会社 横浜支店
	児童・生徒	<b>「大賞」</b> 横浜市立山下みどり台小学校 <b>「実践賞」</b> 神奈川県立神奈川総合高等学校エコ局 横浜市立大学環境ボランティアStepUp ↑ 横浜市立矢向小学校ビオトープ委員会
	<b>「生物多様性特別賞」</b> 水辺愛護会帷子川はふるさとの川の会	

市民の部(130)、企業の部(91)、児童等の部(30)  
合計251団体